

TMU

Bulletin of Tokyo Metropolitan University Alumni Association

2023年（令和5年）No.18

- ◇ 大切なお知らせ！ 『会報TMUの発送の一時停止制度の開始について』
- ◇ 連載復活！ みんなの広場『TMUプラザ』・地域の同窓会『支部だより』
- ◇ 連続テレビ小説『らんまん』ゆかりの母校施設『牧野標本館』をご紹介します！

一般社団法人 東京都立大学同窓会・会報

巻頭言



一般社団法人
東京都立大学同窓会
会長

吉田 雅俊

都立大 1975年卒 工学部 機械工学

(株) 日税ビジネスサービス
(株) 日税不動産情報センター
(株) 共栄保険代行
各 代表取締役会長兼社長 (CEO)
東京新都心ロータリークラブ元会長
趣味: ゴルフ/能/スキューバダイビング/書道

二〇二二年末、サッカー・ワールドカップ・カタール大会(W杯)が開催されました。

日本の代表チームSAMURAI BLUEの予選リーグは強豪揃いのグループEでしたが、二回を数えるW杯で優勝四度のドイツと、「無敵艦隊」と呼ばれ恐れられているスペインを破り、見事グループ一位で通過しました。決勝トーナメントでは、惜しくも一回戦でクロアチアにPK戦で敗れ、ベスト一六で終わりましたが誰もが予想しなかった歴史的快挙でした。

私が今回のW杯の日本代表チームの善戦健闘で強く印象に残った点は三つありました。

まずは日本選手の「国際化」です。日本がW杯に初出場した二四年前は、ゼロだった「海外組」が、今大会では一九人にもなります。彼らは世界最高レベルの欧州リーグでプレーしており、W杯の大舞台でも、ものおせせず堂々と戦っていました。

次に「ICT (Information and Communication Technology: 情報通信科学) の活用」。多くのカメラと発信器付きボールを使用したSAO (Semi-Automated Offside: 半自動オフサイド判定技術) やVAR (Video Assistant Referee: ビデオアシスタント・レフェリー) の導入で、判定精度が飛躍的に向上しました。スペイン戦での、あの「三苦の一ミリ」も、正にVARがあったからこそ成立した奇跡だったと思います。最後に「つなぐ」で、選手同士のみことな連携・連動です。サッカーでは、ボールを相手に奪われず、味方に「つなぐ」ことが求められます。代表チームは全員が巧みにつなげあつて、ゴールを目指していました。

SAMURAI BLUEの活躍を見ていて、同窓会活動に想いが至りました。

まず「国際化」についてです。

母校は、日本を代表する国際都市東京の唯一の公立総合大学として「国際化」を最重要テーマの一つにしています。大橋学長も「学長重点施策方針」の中で、国際化を掲げていま

す。コロナ禍前には、海外から約六〇〇名の留学生を受け入れていました。

同窓会としても、海外留学生の実習や就職をはじめ人材育成、企業との共同研究など、さまざまな分野で母校の国際化に協力できると考えています。

次に「ICTの活用」です。

三年に及ぶコロナ禍の中で、同窓会の各種会議や講演会等のイベントに、リモート方式を導入してきました。対面できないもどかしさがある一方で、それまで勤務時間や地理的な制約のために参加できなかった方も参加できるようになったというプラス面もありました。今後もICTはさらなる進歩をとげると思います。そのため同窓会活動も大きく変わって行くことでしょう。これからはICTをより積極的に活用していきたいと思えます。そのためにも、この分野に慣れ親しんでいる若い世代の参画を期待しています。

三点目の「つなぐ」も、同窓会の最重要テーマです。

同窓会の重点施策として「同窓会と大学との連携強化」(同窓生同士の親睦・交流の場づくり)、(同窓会組織網の整備拡充)、(各種在校生支援)の五つを掲げています。

二〇二一年一二月には母校と『包括連携協定書』を締結し、共同事業に関する協議を行うなど、母校と同窓会の「つなぐ」を深めてきました。これらを通じて同窓会が、同窓生・母校・在校生を「つなぐ」強固な架け橋になることをめざしています。

昨年は、九州支部と北海道支部の総会に出席しました。両支部とも役員の皆様を中心に支部の活性化に尽力されています。懇親会では、年代を越えて同窓生同士が和気あいあいと交流を深め、とてもよい雰囲気です。これこそが同窓会の原点だと思えました。

私は「誰もが参加したくなる楽しい同窓会」をめざしています。本会報でも、コロナ禍で休載していた『支部だより』と『TMUプラザ』も再開でき、嬉しい便りが届いています。皆さんいっしょに同窓会活動を楽しみましょう!



写真上から南大沢キャンパス
1号館・光の塔
日野キャンパス
新棟6号館
荒川キャンパス
校舎棟

Bulletin of Tokyo Metropolitan University Alumni Association

一般社団法人 東京都立大学同窓会 会報 第18号

巻頭言…………… 同窓会長 吉田 雅俊 …… 1

同窓生はいま…………… 4

5年間の留学で得たもの…………… テティ・マリエンティ …… 4

歌舞伎町の税理士…………… 高橋 創 …… 4

シンガポールで集う同窓生…………… 天野幸一郎 …… 5

宮司は寺社設計士…………… 宮川 和工 …… 6

子どもの本に魅せられて…………… 原 正和 …… 7

85167の眩き…………… 渡邊 和雄 …… 8

道化師のような私…………… 福岡おさむ …… 9

旅の本と旅の書店…………… 小柳 淳 …… 10

パラキヤリ構築中…………… 安達 貴仁 …… 10

四万十川の宿屋の女将さん?…………… マノン・エメレンシエン …… 11

プレミアム・カレッジで得た“知の資産”…………… 宇井 節子 …… 12

同窓生訪問インタビュー…………… 静岡県御殿場市 市長 勝又 正美さん …… 14

連載復活 TMU プラザ …… 16

TMU 創業者の会 (16) / MY 八雲会 (16) / 大成建設八雲会 (17) /
日立八雲会 (17) / 東京都立大学土木会 (18) / エリカ混声合唱団 (19)
/ ラグビー部 OBOG 会 (19) / 八雲艇友会 (20) / 八畳会 (21)

つなぐ研究室紹介シリーズ<特別版> 牧野標本館…………… 加藤 英寿 …… 22

連載復活 支部だより …… 24

北海道支部 (24) / 中部支部 (24) / 関西支部 (24) / 九州支部 (25)

学生支援活動① スポーツ・文化活動賞 同窓会長特別表彰…………… 26

競技ダンス部 (26) / 塚本健太 (26) / さはらかん (26) / ラグビー部 (27)
/ 伊藤陽哉 (27) / テコンドー部 (27) / サッカー部 (27) / 鳥人間部
(27) / 学生フォーミュラプロジェクト (28) / 荒川キャンパス自治会 (28)
/ 木須絢香 (28)

学生支援活動② 同窓会寄付講義…………… 29

学生支援活動③ プロジェクト奨励賞…………… 30

鳥人間部 (30) / ロボコン部 (30) / 人力飛行機研究会 (30) / さはらかん
(30) / ラグビー部 (31) / 椎名野歩也 (31) / いきもの! サークル東
京 (31) / CORE (31) / 劇団時計 (31)

一般社団法人 東京都立大学同窓会

広報委員会委員 (委員は五十音順)

委員長	荻原 信吾	都立76年	仏文
副委員長	小原 弘道	科技98年	院工学
委員	鈴木祐美子	首都10年	院生命
委員	関根 紀夫	医技89年	放射
委員	畑 純一	首都12年	院放射
委員	畠山 久	首都08年	院地理
委員	諸貫 信行	都立81年	院機械
委員	吉田 哲也	首都18年	経済

TMU編集委員 (委員は五十音順)

委員長	河井 信	都立68年	経済
委員	安達 貴仁	都立02年	史学
委員	稲野辺久智	都立06年	史学
委員	荻原 信吾	都立76年	仏文
委員	鈴木祐美子	首都10年	院生命
委員	山下日出之	都立78年	法律

母校はいま	32
22年度秋季卒業・修了式(32) / 22年度秋季入学式(32) / 22年度卒業・修了式(32) / 23年度入学式(32) / ベスト・ティーチング・アワード(33) / ひな祭り(33) / 南大沢キャンパスで傷害事件が発生(34) / ウクライナ国立航空大学と連携協定締結(34) / OBOG ネットワーク(34) / 日野新棟竣工(34) / 23年度入試状況(35) / 退職教授・准教授(35) / 名誉教授(35) / 褒章受章者(35) / 司法試験合格者(35) / 21年度卒業・修了生の就職先(36)	
計報	37
八雲クラブで会いましょう	丑山佐千男 37
同窓会奨学金制度に関するお礼と報告	38
寄付金受領のお礼と報告・お願い	39
ワーキンググループ提言概要	42
第2回 定時代議員会議事録抜粋	44
同窓会会計報告	45
同窓会2期 決算 正味財産増減計算書(45) / 第2期 貸借対照表(46) / 第2期 財産目録(46) / 第3期 予算 総括表(46) / 八雲クラブ 特別会計第2期決算(47) / 八雲クラブ特別会計 第3期予算(47) / TDS 第37期会計報告(47)	
会費納入のお願いと	
会報 TMU の発送の一時停止制度の開始について (お知らせ)	48
大募集! 協賛広告・投稿原稿・表紙を飾る作品	48
住所・メールアドレスなど変更届のお願い	48
編集後記	48

表紙の言葉

イチョウの並木は残った。

倉橋 敏雄

東京都立大学
1970年卒
経済学部経済学科



大学を卒業して17年後の87年、八雲キャンパスに程近い現在の住居に引越してきました。未だ移転前で、懐かしさから、よく母校まで散歩したり、学園祭にいったりしました。

そうして4年後の91年に大学は南大沢に移転し、校舎は解体されました。

移転から11年後、かつてのキャンパスは大小2つの芸術ホール、図書館、体育館などを擁する「めぐる区民キャンパス」として生まれ変わりました。

オープンして早速に見学に行くと何もかもが変わっていました。元の通用門があったところまで来ると入口があり、そこから延びる並木を見てハッとしました。

本数こそ減っていましたが、まさしく、かつての通用門から延びるイチョウの並木だと悟ったとき、「これだけは残ったんだ」と小さな感動さえ覚えました。

後に残りのイチョウの木は新キャンパスに移植されたと聞いたとき、この並木が新キャンパスに繋がっている気さえしました。

あれから20年、目黒の一区民として、ずっとこの施設を利用してきました。

そしてすっかり年老えた今、孫と芝生広場で戯れながら、ふとイチョウ並木を見上げるとき、若かった大学時代の日々が懐かしく思い出されるのです。

同窓生はいま



あの人はいま 何してるかな？

5年間の留学で得たもの



テティ・マリエンティ

Tety Maryenti

インドネシア大学助教授

2017年10月～22年9月、都立大大学院理学研究科博士課程（生命科学専攻）。2022年9月、学位取得（理学博士）。22年10月～23年1月、大学院理学研究科客員研究員。

以前に東京農工大学（TUAT）の交換留学生として1年間東京に住んだ経験がありましたが、その時は文化の違いや言葉の壁など、新しい環境に慣れるまではストレスと不安でいっぱいでした。しかし都立大では幸いなことに、私を温かく迎えてくださる教授、スタッフ、友人がいる研究室に入ることができました。

そしてTUAT在学中に基本的な日本語能力を身に着けることができていたおかげで、友達を作り、人々と交流し、ペースの速い東京での生活を生き抜くことができました。その結果、自立と自給自足の生活を手に入れることができたのだと思います。

5年以内に修士号と博士号を取得するのは簡単なことではありませんでした。そのためには、勉強により多くの時間を割き、常に新しい方法を考え、検討する必要がありました。実験で成功する前に何度も失敗を経験したことも、落胆すると同時にやりがいも感じるようになりました。そして何より幸いなことは、指導教官の岡本龍史先生をはじめ、植物発生生理学研究室の先生方には、学術面だけでなく、精神面でも揺るぎないサポートをしていただいたことです。

留学生として海外で生活したことは、私の教育的視野を広げ、専門的なスキルを磨くことができる豊かな経験になりました。この経験は、私が直面する事態に

よりよく適応し、文化を認識し、多様なバックグラウンドを持つ人々とともに効率的に働くことができるようになるのに役立ちました。

また、留学を通じて世界中の人々と生涯のつながりを持つことができました。国内外の会議、交換プログラム、大学との共同研究に参加することで、生涯にわたる教訓を学び、ネットワークを広げました。これらは私の将来を支える貴重な資源になるでしょう。

これまでの日本での暮らしや、東京都立大学で勉強してきた時間は、素晴らしい思い出でいっぱいです。

とはいえ個人的にもっともつらかったのは、家族と離れて暮らすことです。特にコロナ・パンデミックの間は、家に帰ることがどうしてもなくむずかしいことになっていました。

ふいにホームシックが忍び寄ることがあります。そんな時も、悩みを打ち明けられる信頼できる友人の存在は、日本滞在中のかけがえのない支えとなりました。友人と一緒に時間を過ごし、日本の美と文化を発見できました。また、仕事と余暇のバランスを保ち、精神的に健全な状態を保つよう努めました。

海外での生活が私を圧倒する瞬間がありました。しかしそんな時、私は自分の目標を思い出しました。海外に住むには、強い精神力と決意を持つことが重要です。「私の重要な目標は何か？」と常に自問することが大切です。そうできれば、たとえ思い通りにいかなくても、夢を追い求める意欲を持ち続けることができます。

留学は学問的、個人的、社会的に成長する機会を提供する、厳しいが満足のいく経験になるでしょう。視野を広げ、新しい視点と可能性を得るまたとない機会です。

歌舞伎町の税理士



高橋 創

たがはし・はじめ

都立大97年卒 経済

卒業後、専門学校講師、会計事務所勤務を経て07年2月に、新宿2丁目に税理士事務所を開設。かたわら新宿ゴールデン街でBAR『無銘喫茶 あんよ』も経営する。著書に『桃太郎のきびだんごは経費で落ちるのか？』（ダイヤモンド社）、『図解 いちばん親切な税金の本』（ナツメ社）など。

父が税理士だったことから税理士試験を受け始めたのが大学3年。それから紆余曲折あり自分の税理士事務所を開業したのが32歳。以来“新宿二丁目”というゲイバーなども立ち並ぶ街で、ひっそりと税理士業を続けています。

税理士というひとすら税金の計算をするのが仕事だと思われがちですが、主な役割の一つとして中小企業の経営者や個人事業主の相談相手があります。商売がうまくいったり失敗したりを間近で眺めるという意味では、日々『情熱大陸』や『しくじり先生』を見ているような感覚でしょうか。なかなか楽しいです。



『無名喫茶 あんよ』日替わりで店主が替わります。

この数年でいちばんのトピックはやはりコロナ禍です。税理士業とは別に新宿のゴールデン街でバーを営んでいることもあり、新宿二丁目のゲイバーやゴールデン街の飲み屋さん、歌舞伎町のホストクラブなどからもさまざまな相談を受けました。日々の経営のこと、休業の協力金や助成金のこと、年配の方からは店じまいのタイミングのこと……。

自分の知見が他の人の役に立つというのは嬉しいことですし、やりがいのある日々でしたね。コロナ禍が長引くにつれ面倒な気持ちが勝るようになってきましたし、お金にもなりませんでしたが良い経験ではありました。

とくに印象に残っているのは、名物ママが経営していたゴールデン街のお店が、コロナ関連の協力金をもらえずに廃業したことでしょか。

協力金の中には、その申請にあたって物件の契約書などさまざまな書類が必要なものがあつたのですが、契約関係を整えないまま“又借り”で営業していたその店は、書類をそろえることができませんでした。相談を受けて可能な限り手は尽くしてみたのですが、ま

ったく力になることはできず、その店はしばらくしてひっそり廃業しました。

制度を適正に運用することは大切なので、一介の税理士にどうこうできる話ではないのですが、無力感を感じたものです。もちろんそれとは逆に、さまざまな情報提供をすることで中小企業や個人事業主の力になれた部分もあります。そういった意味では、仕事内容だけではなく感情面でも忙しかった数年でした。

2年前は目も当てられなかった繁華街も、だいぶ活気を取り戻してきています。歌舞伎町も外国人観光客が増え、ゴールデン街にもぎやかです。

税理士が楽しく仕事をできるのはお客さんが元気であってくれてこそ。新宿に立ち寄られた際にはぜひお立ち寄りください（といっても歌舞伎町は怖いところでもあるのですが）。お待ちしております。

シンガポールで集う同窓生



天野 幸一郎
あまの・こういちろう
首都大11年卒
都市教養学部法学系

楽天モバイル株式会社 法人営業部。13年から通信会社や総合建設業を中心にシンガポールで勤務。22年に帰国。

あまり褒められた大学生ではなく、勉学は試験直前に友達からノートを借りて詰め込み、何とか単位を取るといふありさま。硬式野球部に入りしましたが、プロ野球選手を目指せるようなレベルでは到底ありません。それでも授業が終われば自転車で部室棟に行き、毎週末のリーグ戦に向けて練習に明け暮れました。

ともに過ごした同期や先輩、後輩たちとの時間は、大きな財産となりました。卒業後はシンガポール勤務が主でしたが、そこでは同窓生との繋がりの大切さを感じました。

シンガポールは東京23区とほとんど変わらない都市国家で、国民のほとんどが自身の母国語のほか英語が共通語で、多くの外資系企業や最先端技術を呼び込むことに成功した国です。日系企業も早くから進出しており、私も28歳から約9年間勤務しました。

当初は英語に苦しんだのですが、何とか乗り越えられたのは同窓の先輩方との出会いがあったからです。

出会いは同じ飲み屋に通っていた同窓生同士が、店の主人を通して知り合ったのがきっかけです。途中か

ら入った私も快く受け入れていただきました。

以来、年に2、3回の“同窓飲み会”を10人前後で続けてきました。



シンガポールの“同窓飲み会”

先輩方からは海外での仕事の仕方や外国人の同僚とのコミュニケーションの大切さなど、多くを教えてくださいました。会が重なるにつれ参加メンバーも広がり、都立大に留学していたシンガポール人、シンガポールの大学に交換留学でやってきた現役都立大生、出張でいらっしゃった学校関係者もご参加いただき、交流を深めることができました。

同窓会でいつも話題になっていたのは、海外で頑張る同窓生を応援していきたい、ということでした。私自身、現在は日本に帰任しておりますが、これからもシンガポールはじめ海外で活躍する同窓生を応援できるよう、何らかの形で微力ながらサポートしていきたいと思っております。

宮司は寺社設計士



宮川 和工

みやがわ・かずのり

都立大 大学院 03年修了 建築

日本伝統建築事務所代表。矢本八幡宮宮司（長野市）。伝統文化と環境福祉の専門学校非常勤講師。主な設計：白髭神社拝殿等保存修理工事（17年）、名古屋城天守閣整備事業技術協力（18～19年）、令和元年国宝仁科神明宮式年遷宮（19年）、戸隠神社中社大鳥居建替工事（20年）、戸隠神社御鳳輦調製（21年）

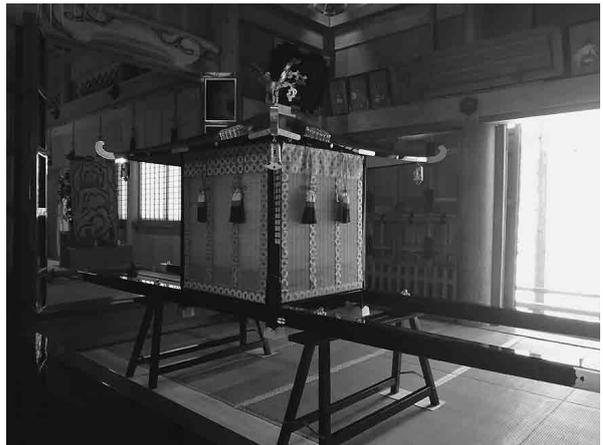
生まれ育った長野戸隠で建築士と神職の二足の草鞋を履いています。

社家（神社の奉祀を世襲してきた家）の長男で、小さな頃から「いつかお前も神主になるんだよ」と祖母に言われながら育ちました。その刷り込みは効果テキメンで、疑うことはありませんでした。けれども、高校生くらいからやっぱり理系が好きだなあとか、神職の大学には行きたくないなと思うようになり、なんとなく都市計画に惹かれ都立大都市科学研究科へ。

都市研では玉川英則先生のもとで、都市解析のいろはを学びながらも、古社寺や重伝建に惹かれ国内を見て歩いていました。そんなとき、同期の池田くん（04年都市科学修了）が「古建築の修理ってカッコイイよね」とつぶやき、僕も激しく同意しました。



戸隠神社大鳥居
（高さ約11m、笠木長さ約15m、柱太さ約1m）



戸隠神社御鳳輦（奈良手向山八幡宮の御鳳輦を参考に木曾檜、漆塗、銕金具は水銀鍍金で設計）

それから設計事務所に就職し、最初の仕事でキリスト教の修道院を担当しました。聖堂部分の施工を担当した社寺建築の工務店の社長がお寺の生まれで「神主の息子と坊主の息子でキリスト教の修道院を造ってます」と意気投合し、古建築に興味があった僕は言われ

るまま工務店の設計担当になり、社寺建築のイロハを習うことに。「かやおい？うらごう?? はねぎ??」と一般の建築では一度も使わないであろう部材の名称から、原寸大の図面を描くことや、どんな樹種をどこに使うか、といったレアな経験をさせてもらいました。

いつかは実家の長野へ戻らないといけないと思っていた矢先、東日本大震災がおき、田舎に暮らすことが現実になりました。このとき転職も考えましたが、社寺建築も捨てがたい。ただし工務店を起業するには敷居が高すぎると考え、社寺建築専門の設計事務所を覗いて独立の参考にしようと思いました。

そこでは技術的なことよりも、建築の積算とはなんなのかを学びました。スーパーに並ぶトマトのように金額を決めて販売するものではないものに金額をつける大変さがわかったのです。

14年、東京への通勤から逃れるために個人事業主になりました。しかし30代ではどこの社寺に営業に行っても相手にされないことがわかったので、各地の工務店に営業し、仕事をもらいながら食いつないできました。さながら道場破りの気分で、行った先の人から仕事を通して技術を学びました。

最近はやっと伝統建築の様式と技法が腑に落ちたようで、20代の頃に見た古建築たちが、違った見どころを改めて僕にアピールしてくれています。いままでの出会いに感謝しながら、古建築の保存修理も神職も次の代に繋げることを目標に日々奮闘しています。

木造建築でお困りのことがあれば、犬小屋から五重塔まで、どんなことでもお気軽にご相談ください。

室に勤務し、1927年から続く統計書『日本国勢図会』や、子ども向けの社会科の本『日本のすがた』など、書籍の編集に携わっています。

一方で学生時代から童話を書いてコンクールに応募しており、就職してからも続けました。やがてコンクールでの入賞が続くようになり、いつしか本を出版できるまでになりました。そして21年4月に出版した幼年童話『うさぎとハリネズミ きょうもいいひ』（絵・石川えりこ・ひだまり舎）で22年5月に第55回日本児童文学者協会新人賞を受賞しました。16年（第49回）に続く2度目の候補での受賞でした。

新人賞の過去の受賞者には、あまみきみこさんや安房直子さん、灰谷健次郎さん、上橋菜穂子さん、梨木香歩さんなど、日本の児童文学界を代表する作家が名を連ねており、身の引き締まる思いです。

受賞作は韓国語に翻訳され、22年10月に韓国で出版されました。韓国語版を手にとった時、ハングルで書かれた自分の名前を読むことができ、30年前に韓国語を学んでよかったなとしみじみ感じました。また同年11月には『うさぎとハリネズミ』シリーズの2作目となる『きっとあえる』が出版されました。



子どもの本に魅せられて



原 正和
はら・まさかず
都立大 96年卒 経済

作家、編集者。（一社）日本児童文学者協会理事。コロナ禍を機に、子どもたちが自由にお話を読んだり、聴いたりすることができるサイト『よむよんで』を運営している。全国信用金庫協会の月刊広報誌『楽しいわが家』に、エッセイ「お父さんの気持ち」を連載中。

経済学部では田村紀之先生のゼミで、アジアの経済について学びました。田村ゼミでは韓国語が必修で、おかげで今でもハングルを読むことができます。

大学卒業後は、公益財団法人矢野恒太記念会の編集

23年3月末で長年勤めてきた公益財団を退職し、4月からは日本児童文学者協会に勤務しています。これからは、より一層精進し、子ども達に愛されるいいお話をたくさん書いていきます。

ところで、話が前後するのですが、17年に『ゆめのふね』（絵・黒井健・チャイルド本社）という月刊絵本を出版しました。月刊絵本というのは、幼稚園などに直販されるソフトカバーの絵本で、市販されてい

ません。ですが、この絵本は18年に中国で簡体字版が、19年には台湾で繁体字版が翻訳出版され、それぞれハードカバーで市販されています。

簡体字版の絵本『夢里的小船』を翻訳してくださったのは、岳远坤さんという北京大学外国語学院の先生です。この方が、なんと、11年から1年間、首都大学東京に留学されていたのです。不思議なご縁を感じました。その後、岳さんとはSNSを通じて友達になりました。

『ゆめのふね』は、中国でも台湾でもとても人気のある絵本です。とくに台湾では19年に第77回〈好書大家讀 子どもの本部門 推薦図書〉に選ばれました。この絵本を、今後日本でもハードカバーの本として市販化できるよう、頑張ります。

85167の眩き



渡邊 和雄

わたなべ・かずお

都立大 68年卒 電気工学科

キヤノンに入社。もっぱら生産技術部門で性能評価や検査機器の開発に携わってきた。

1964年、都立大工学部に入学

“85167”とは私の学生番号です。皆さんはご自分の学生番号をご記憶でしょうか？ ちなみに8は4年で卒業するはずの西暦年の下一桁。5は工学部を示し、167は工学部内のシリアル番号です。

ということは、10年に一度同じ学生番号が生まれますから、この番号の学生さんが何人生まれたのでしょうか？ もっとも学生数が大きく増えた今、学生番号の仕組みも変わっているでしょう。

1968年、キヤノンに入社

カメラのシャッタースピードの表示には不思議があります。1, 2, 4, 8, 16, 32 ……と2の累乗になるのですが、なぜか16は15、32は30と、途中から丸められています。JISにも丸めても良いと記載されていますが、誰が・何のために・いつから始めたのか不明です。

ところで昔の一眼レフカメラは完璧な精密機械で、エネルギー源は人がフィルムを巻き上げる動作だけ。写真を撮る起点はシャッターボタンを押すだけ。この二つの作業だけで、あとは数十あるバネに

チャージされたエネルギーを、ピンとレバーとカムで順番に開放すると撮れる優れものでした。

初期のマイクロコンピュータのプログラミング

プログラミングは、限られた単語（初期では数十語）で文章を作るようなものです。例えば「足し算」と「2倍」という単語だけで「10倍する」という作業を表現するようなものです。たいていの人は「10回足し算を繰り返す」と表現するでしょう。これでは演算が10回必要です。しかし「2倍を2回し、元の数を足し（つまり5倍になる）、さらに2倍する」と書けば演算は4回ですみます。

趣味のヘラブナ釣りは20年

社会人になってから始めたヘラブナ釣りにはまって、休日と有給休暇をすべて使って釣っていました。

ヘラブナ釣りには昔から面白い表現があります。一尺（30cm）以上のフナは大物で「尺上（しゃっかみ）」、ちと寸法の足りないやつは「泣き尺」。九寸（クスン）だから。最近ではヘラブナも大型化し、40cmに足りないのを「泣四十」などと言い出しました。

2007年、再雇用途中でキヤノンを退社

57歳で仕事から退き、写真撮影を始めました。両肩が突然四十肩になり、釣りができなくなったためです。最初の10年はもっぱら風景写真。夜中に家を出て日の出30分前には三脚を立てて準備完了……。朝晩ひたすら、よい雲を追い続けました。



『皁月の黎明』ローカルなコンテストで一等賞金10万円ゲット。

2017年、地元の写真クラブに入会

写真クラブの指導者に雲の撮影を止められ、さまざまな物を撮影するようになりました。

最近では室内での撮影で他の人が撮らないような写真を狙っています。水の表面張力の曲面に映しこんだマーブル模様とか、CD、氷の干渉による虹色とか、墨流し風とか……。幸い私の作風はそれなりに評価され、カメラ雑誌に私の特集記事が載りました。



『水面の彩』とその撮影方法。モノクロ印刷で残念！

- ③ 3.0cmほどの木枠に細い黒紙をすだれ状に張ったものを窓際（光源）に置く。
- ④ それが水に映り曲線を描く。



- ① 黒塗りの洗面器に、被写体と少しの水を置く。
- ② 水が周囲と被写体に接した部分が表面張力で微妙に曲線を描く。

道化師のような私



福岡 おさむ

ふくおか・おさむ
 首都大 15年卒 哲学コース
 応援団/ソフトテニス部/
 体育会本部/学生団体 SLE

オープンセールスパー新橋 オーナーバーテンダー

私は現在、JR 新橋駅烏森口から徒歩 2 分のビルの 2 階で、客席 20 席ほどの BAR のオーナーバーテンダーとしてカウンターに立っています。

バーの敷居が高い雰囲気をやわらげつつ、大切な人との特別な時間を過ごせるよう本格的な酒を提供し、早い時間はゆっくりしたい方に、遅めの時間は新橋の賑やかな面も保ちつつ、サラリーマンの街とはまた違

った雰囲気を楽しんでもらえるお店を目指しています。

もともと内気で引っ込み思案な人間で、BAR を開店した理由の一つは、内気な自分を隠すためだったかもしれません。母校の落ち着いた校風からして、私のような道を歩む人は多くはないかと思いますが、道化師のような仕事を志したのも、そんな理由からと思っています。

そもそも兵庫県出身の私が東京都の大学を志したのも、自分を変えるために新しい環境に飛び込むことが目的でした。幸い浪人・受験を許してくれた両親のサポートもあり、入学することができました。

勉学以外の学生生活の目標は【人前に立つ環境下の部活・サークルに入る】、【接客業のアルバイトをする】ことで、この 2 点を軸に苦手な対人関係・コミュニケーションの克服に努めました。

とくに応援団に入団し【最前面で周囲の目線を浴び】かつ【周囲のサポートから組織が出来上がる体験】をしましたが、これが現在のバーテンダー稼業に通ずるものがあるかと思っています。



カウンターの中の道化師

また、飲食店でのアルバイトは、居酒屋に始まりナイトクラブ、BAR へと興味の幅が広がり、やがて店を構えることへの意欲が沸き起こってきました。

卒業後、店舗専門不動産や大型飲食店での勤務経験を経て 19 年末頃、具体的に出店への準備をスタート。しかし当時は新型コロナ騒ぎの前。新規出店には厳しい環境で、物件の内覧に行っても門前払いされることが多々ありました。

そして最初の緊急事態宣言の終わり頃、まだ出店を見合わせる傾向が強い中、敢えて逆行して内覧を続け、今の場所に巡り合い、出店にこぎつけたのです。

多少の不謹慎を承知で申し上げますが、このコロナ

騒ぎの中だからこそ新規出店できたのだ、とも捉えています。

しかし出店後は、当然、集客の苦労は尽きません。出店から1年ほどは、丸一日営業してもお客様がゼロの日もあり、心が折れそうな日が続きました。そんな中でも、人が人を繋いでくださり、お客様も徐々に増えつつあります。まだまだ未熟なお店ではありますが、支えて下さる方々に感謝しつつ、日々励んでおります。

旅の本と旅の書店



小柳 淳
こやなぎ・じゅん
都立大 81 年卒 法律学科

『街々書林』店主。日本香港協会理事、日本旅行作家協会会員。Visit Japan 大使（国土交通大臣・観光立国担当大臣より任命）。卒業後、小田急電鉄入社。同社執行役員、小田急トラベル社長、小田急電鉄取締役、ホテル小田急社長など歴任し 22 年退任。

ホテル勤務をしていた 2020 年の夏頃、出版社『書肆梓』を運営している法学部同窓（81 年卒）の小山伸二さんから旅の本を書かないかと誘われました。旅そのものに思いを馳せる本ではどうか、という提案です。何事もまずは「それいいね！」と反応してしまう私はその企画に乗り、旅の原稿を書き続けました。もしかするとそれは、コロナ禍での辛い日々の仕事に対して心のバランスをとることになっていたのかもしれない。

タイトルは『旅のことばを読む』です。旅に関する本から旅への想いを描いてゆく、旅の空にあってかつて読んだ本の一節を思い出す、本に本が入れ子になったような構成の旅のエッセイです。地図や時刻表などの旅の具ともいえるもの、空の旅や船の旅の素敵さ、ベルリンの壁、百人一首の歌から始まった旅、奈良京都の格子状の街路やイタリアとキリスト教。古今東西の旅人にはフーテンの寅や松尾芭蕉、カレル・チャブック*も出てきます。

紀行、地理、歴史もあれば言語や世界の文字に関する本など、計 79 冊になりました。言語については 40 年以上前に母校の一般教養で学んだ本『ことばと国家』

*大戦間のチェコスロバキアの国民的作家。チェコ語「ロボタ robota（労働）」から「ロボット」という言葉を作ったとも言われる

（田中克彦・著／岩波書店 1981 年）が起点になっています。それまでの 20 年ほどの間に、香港の旅に関する本を 8 冊出版しましたが、香港以外を書いたのは初めて。そして、写真や図版のない文章だけの本にしたのも初めてです。

旅は数日から 1 週間程度で通り抜けるしかないのですが、その土地に積み重なっている歴史や文化の一部だけでも知ったうえで旅に出たい。だから旅が決まると書店で旅先の土地の本を探します。せっかく出会う未知のものごとを、自分がいま持っている知識だけで判断し、決めつけるのはもったいない。旅先への興味と敬意をもって旅をしたい。冷やかしの傍観者になるまい、旅行者としての慎みも備えていたい。そういう想いをこの『旅のことばを読む』に込めたつもりです。

3 年以上続いたコロナ禍に翻弄されてきましたが、ひとつの区切りとして昨年春に会社を辞めました。そして 23 年初夏に、以前からの夢だった“旅の本と旅の本屋”『街々書林』を東京の吉祥寺中道通りに開きます。

旅をするにときに、その旅先の土地に関する文化や風土、歴史や文物などを知っておきたいと思っても、それに関する本を集めた書店は少ないのです。それでは自分で作ろう、という想いが生まれてきました。そして企画を練っていて気づいたのは、私のいままでの旅への向き合い方、さらに昨年出版した『旅のことばを読む』と、新しい本屋のコンセプトとが同じなのだということでした。

「退職後は第二の人生」などと考えずに、新たな挑戦をし、日々旅にして旅を栖とする、そういう生き方にしようと考えています。

パラキャリア構築中



宍達 貴仁
あだち・たかひと
都立大 02 年卒 史学科

印刷会社・出版社等の勤務を経て、個人事業主として、編集・制作、さらにカメラマンなどで活動中。

「パラキャリア」とは文字通りキャリアをパラレルに、すなわち並行して築いていくことです。つまり「副業」ならぬ「複業」を持つということ。『マネジメント』『プロフェッショナルの条件』で知られる、ピーター・ドラッカーが提唱した考え方です。

私は20年近く、おもに印刷会社で書籍のDTP組版に携わってきました。DTPとはDeskTop Publishingの略で、つまりはコンピュータ上で印刷物のレイアウトを行う仕事です。

現在はその経験を生かし個人事業主として、自費出版の書籍や電子書籍の制作サポート、私と同様にパラキャリを築いている人の個人的な名刺作成、さらに史学科出身という経験も生かし、神社や寺院のパンフレット制作を請け負っています。

趣味の写真撮影が高じて、プロフィールや商品撮影の依頼も受けるように。イベント撮影の際には、その延長で運営に携わることも。さらに写真好きと旅行好きを合わせて、自らも旅行記を執筆、先日2冊目のKindle本（Amazonの電子書籍）を出版しました。

「パラキャリ」という言葉に含まれているのは、収入が得られる仕事に限られません。家事や育児をはじめとした家庭内での役割、自治会やPTAなどの地域・学校関連活動、福祉関係や災害時支援のボランティアなど……。自分が持つ知識やスキル、得意なこと、あるいは若さや体力といったものも含めた「価値」を提供することで、新たな経験や人脈、喜びや充足感などの感情という「対価」を得られるものはすべて「キャリア」。だからそうした活動をしている人はみんな、パラキャリを構築していることになります。

ちなみに今回のプロフィール写真は、自主制作映画にエキストラとして出演した時のもの。これもまた、報酬はなくても思いがけない人脈と経験を得られたキャリアの一つになりました。

このたび私のパラキャリの中に、TMU編集委員としての役割が加わりました。会報の制作を微力ながらサポートしてまいります。今回は連載記事のタイトルデザイン、一部連載の完全データ作成、画像の品質チェック・アドバイス、さらに文章全体の校正などをさせていただきます。

よろしく願いいたします。

四万十川の宿屋の女将さん？



マノン・
エメレンシエン
Manon Emerentienne

私は2015年にオーストラリアのEdith Cowan

Universityから首都大学東京に1年間留学させていただきました。

16年に卒業し、いったん実家に帰りましたが、すぐその夏にワーキング・ホリデービザで日本に戻りました。よく知られてない四国の田舎の会社のバイトを見つけ、その会社での仕事は、半年の予定がいつの間にか7年間になりました。

我が社は、地方の市町で管理者を求めている宿泊施設をさがし、その管理代行をしております。16年にはまだ愛媛県に施設が1件しかありませんでしたが、現在、四国と九州を合わせて5件に増えております。私は愛媛県久万高原町で8ヶ月働き、それからずっと高知県中土佐町で働いております。最初は部屋掃除や草刈り、ペンキ塗りなどでしたが、どんどん任されて、今は高知の施設の“女将さん”をしております。

実際はコロナが始まってから、GWと夏休み以外は一人で施設を回していますので、女将さんより便利屋さんの方が正しい呼び方だと思いますが。

宿泊施設なので、受付、HPの管理、掃除、施設のメンテナンス、料理……色々な仕事があります。



私の今の職場

コロナ前までは「泊まる場所を探している旅人」と「働いてくれる人を探しているホスト」を繋ぐマッチングサイトWorkawayを利用し、海外からの方をボランティアとして受け入れていました。

ボランティアには1日数時間の作業をしてもらう代わりに、食事と宿泊を提供します。多い時には9人も来ていただきました。人数が増えると管理も大変になりますが、色々な文化（言葉、料理など）を学べるのは楽しかったです。昨年10月から入国規制が緩くなったので、外国人が増えることを願っています。

施設の周りにアクティビティなどはないので、冬には観光客はすごく少ないです。そんな時は、休みをまとめて取ったり、ゆっくり色々なプロジェクトに取り

組んだり、別の施設で仕事したりもします。たとえば21年の冬はみかん工房で手伝いをしました。22年には、3年ぶりに実家に帰らせていただきました。

今年は愛媛県の魚島の施設で働いています。ここは小さな島で、自然が豊富で、ヒラメの一種デベラ干しの風景は冬の風物詩となっています。またたこ壺漁も盛んで、港にたくさんのたこ壺が並ぶ風景が観られます。村上水軍の財宝伝説も残っており、亀井八幡神社の宝篋印塔（墓塔・供養塔などに使われる仏塔の一種）は、重要文化財に指定されています。島唯一の宿泊施設魚島観光センターがあります。

毎日海を見られるのは良い気分です。ただし風が強いのが難点かもしれません。それに、海が目の前にあるのに泳げないのはとても残念です。私の実家も島（インド洋のレユニオン島）ですが、そこは冬がなく、一年中いつでも泳げます。

私が普段働いている高知の施設は中々広くて、ど田舎で、山に囲まれ、川のせせらぎはすごく落ち着け、人嫌いの私にぴったりです。よく「淋しくない？」と聞かれますが、私は逆に、誰もいない何も無い所が好きなのです。

同窓生の皆さんも四国を体験しに来てください！

る。そして、心豊かになる充実した多くの学びと先生方や学友達との交流によって得られた“知の資産”は、私にとって何物にも代え難いものになった。

今や日本の100歳以上の人口は9万人を超え、その長い人生に向け、自分がこの先どのように生きていくのかを考えることが100歳人生の鍵になる。カレッジ入学当初から「知識の享受は次の人生への土台」と言われたが、私にとって本当に重要なステップであった。過去のロールモデル（生き方の手本）があまり役に立たない長寿化時代には、個人も、大きく変わることを求められているのかも知れない。

人生が短かった時代は、教育を受け、会社人間、引退というのが一般的だったが、今や同世代の人がみな同じキャリアを選択するという常識は難しくなりつつあり、人生全体を設計し直さなければならないのだ。

人材論、組織論の世界的権威のグラットン、3つの無形の資産（生産性資産、活力資産、変身資産）を挙げ、長寿化時代には中でも変身資産（自分についてよく知っていること、多様性に富んだ人的ネットワークを持っていること、新しい経験に対して開かれた姿勢をもっていること）がもっとも重要だとしている。

長寿化という所得や貯蓄の問題ばかりが目されるが、じつはこれからの人生には、この“無形の資産”をどのようにマネジメントしていくかが大切になっているのである。

4年間の学びで、多くの“知の資産”を得たことは何物にも代えがたく、心から感謝申し上げたい。そして、これからも学びの環境に身をおきたいと思う。

プレミアム・カレッジで得た“知の資産”



宇井 節子
うい・せつこ
プレミアム・カレッジ
研究生コース 23年修了

2018年暮れ、満員の京王線車内の吊広告が目にとまった。“生涯学べる100歳大学”それから4年後、私はプレミアム・カレッジの研究生コースを修了した。

特色あるグローバルなカリキュラムと自然豊かな学修環境で過ごした4年間は、心に深く刻み込まれてい



参考文献：
『LIFE SHIFT
— 100年時代の人生戦略』
リンダ・グラットン／
アンドリュー・スコット 著
池村千秋 訳
東洋経済新報社 2016年

NPO 法人 MeC (Metropolitan Careers)

MeCへご入会のお誘い

— 学生支援と会員の交流が目的です —

都立大の寄付講義、学内外授業などの学生支援、
ひな祭りの支援、月例会・研修旅行などの交流と自己研鑽
興味のある方はホームページへ <https://npomec.com>
理事長 諏訪内 幹弘 (都立大 1965年卒 工・機械)

(一般財団法人) 建築保全センター

理事長 奥田 修一

都立大1973年卒 工・建築

建築保全の情報センターとして
公共建築物の有効活用を
サポートします

<https://www.bmmc.or.jp/>



税理士界一筋おかげさまで50周年

「税理士とその関与先のために」 創業以来の理念です。

日税グループは、この理念のもと、税理士先生と一緒に関与先様の繁栄を支え、そこに関わる全ての方々に豊さと幸せをもたらすことによって日本社会に貢献いたします。

集金事務代行

不動産コンサルティング
(仲介・有効活用、鑑定評価等)

研修
(税理士向け、関与先向け等)

保険の有効活用

総合コンサルティング
(資産・事業承継、M&A)

資金繰り改善
(ファクタリング等)

信託

税理士とその関与先のために
50th
NICHIZEI GROUP

株式会社 日税ビジネスサービス

株式会社 日税不動産情報センター

株式会社 日税経営情報センター

株式会社 共栄会保険代行

株式会社 日税サービス

株式会社 日税信託

日税グループ 代表取締役 吉田 雅 俊 都立大 1975年卒 機械工学科
会長兼社長

〒163-1529 東京都新宿区西新宿1丁目6番1号 新宿エルタワー29階 TEL:0120-155-551
拠点：北海道・東京東・東京西・埼玉・千葉・横浜・名古屋・大阪・神戸・広島・九州

同窓生訪問 インタビュー

恵まれた自然と人と財源を活かす

静岡県御殿場市市長
勝又 正美さん



かつまた・まさみ
都立大 1978年卒 経済学部経済学科

1978年、御殿場市役所に就職。2008年、企画部財政課長。以後 企画部行政課長、企画部長、教育部長などを歴任。2016年、御殿場市副市長に就任。2021年、副市長を退任し、市長選に出馬して当選。同年10月、御殿場市長に就任。

—— 御殿場駅から市役所に来る道沿いの看板などを見ると、勝又というお名前はメジャーなようですね。

そうです。昔はクラスの半分近くが「かつまた」でした。最近は少なくなっていますが、それでも一番多い名字です。そして「勝又」のほかに「勝俣」と「勝亦」、それに「勝間田」があり、集落ごとに集まっていますが、一番多い「勝又」だけは全市的にあります。

ちなみに1955年の市政発足時から、市長は2代続けて「勝又」で、私が就任した2021年の市長選で競った方も「勝間田」ですが、いずれも縁戚関係はありません。しかし「かつまた」の祖先は静岡の西のほうから来たなどとも言われ、ルーツは同じでしょう。

—— 御殿場は地名的には全国区ですが、実際は富士山の登山口ぐらいしか知られていないように思います。そこで市長自ら御殿場市を紹介してください。

御殿場市は富士山と箱根の外輪山に挟まれた高原都市で、現在は観光都市としても定着しつつあります。

21年度の集計では、コロナ禍にも関わらず1200万人が訪れています。もちろん皆さん富士山をめざして来るのですが、他にも日本最大のアウトレット『御殿場プレミアム・アウトレット』やレジャー施設『御殿場高原 時之栖』なども観光スポットになっています。

御殿場の魅力は、とにかく富士山の大自然で、澄み切った空気と豊富な伏流水。水道水は富士山の恵みをふんだんに受けた地下水100%のとてもおいしい水で

す。温泉やサウナでも伏流水の水風呂が魅力で、これを求めて首都圏からも多くの方々に来ていただいています。ほかにも銘柄米の『御殿場こしひかり』やワサビ、水かけ菜、トウモロコシやサツマイモなどの農産物も豊富で、観光と第一次産業がタッグを組んだ高原のまちという一面もあります。

また、市域は比較的平らな地形で、山や谷、大きな川がなく、自然災害はほとんど起きていません。

—— なかなか魅力的なところですが、その一方、自衛隊の演習場や米軍基地もありますね。

陸上自衛隊駐屯地やアメリカ海兵隊の『キャンプ富士』、そして『東富士演習場』があります。演習場については5年ごとに『東富士演習場使用協定』を結び、その際に必ず地元へ還元しています。配水池や道路、河川の整備とか、あるいは公共施設の建物を造るなど民生への還元が多いです。

現在、市の予算規模は400億円くらいですが、そのうち70億円ほどは演習場があるために市へ入ってくるお金です。結構な金額で、市内を車で走るとわかると思いますが、道路がしっかりと整備されています。また耐震基準が厳しくなった頃には、学校などの公共施設のほとんどを改修しましたが、予算の9割が防衛関係のお金でした。

なにより米軍や自衛隊とはフレンドリーな関係が築けています。市の要望に対して非常に忠実に対応してくれています。定期的に市民に施設を開放し祭りを開催したり、米海兵隊も清掃活動に参加したり、あるいは市民といっしょに稲刈りをしたり。今後も良い関係性を続けていきたいです。

—— いいところですね。そこに根づいていた勝又さんが都立大を選んだのはなぜですか。

あの頃は我が家もなかなか厳しい時代で、親にはなるべく経済的な負担をかけたくなかった。それと都心のマンモス校にはあまり魅力を感じませんでした。

その頃、御殿場と東京の渋谷を結ぶバス便があって、よくそれで渋谷に出て、東横線で自由が丘に行って買い物などをしました。それで4年間親元を離れて暮らすにはいいな、ということもありましてね。

—— どんな学生生活でしたか。クラブ活動やアルバイトはおやりになったのですか？

クラブには入らなかったのですが、だんだん友達が増えて、好きな野球をしたり、よく遊んでました。

アルバイトは友達数人と老舗の海苔屋さんで働きました。毎年、中元、歳暮の時期に海苔屋さんの法被を着て、それぞれ勤め場所は違いましたが、朝早くから

店頭に立ったり、裏でいろいろ作業したり。なかなかきつかったのですが、いい経験になりました。

たとえばデパートでは、海苔屋さんのコーナーがあって、それぞれの店に学生バイトがいました。お互いある意味ライバルなのですが、学生同士なので仲良くなり、終わった後はいっしょに打ち上げ会などをしましたよ。

他にも週2回ほど中学生の家庭教師もずっとやっていましたね。その子たちからは私の卒業後も年賀状が来ていましたよ。

そんなバイトのお金で、みんなで北海道旅行に行くとか。社会人になってからも10年間ぐらいは、その友達が御殿場に泊りでゴルフに来たり、あるいは私が東京へ行って飲んだり。箱根や伊豆へ旅行もしました。最近は仕事の都合がつかなくて行けてませんが。

勉強の方は、正直に言うとテスト前によく一生懸命になるというタイプでした。そういえば普通の授業は昼間ですが、ゼミは暗くなってから始まることもあって、そのあとはみんなで飲みに行くこともありましたね。ともかく4年間、よく遊んで好き勝手に過ごしていましたよ。

—— 御殿場市役所に就職されましたが、「いずれは市長」と考えておられた？

いいえ。もともと金融関係に興味があり、就活では東京や横浜の証券会社を受けたり、会社訪問したりしました。ところがオイルショックの真っただ中で、企業の採用がほとんどない状態でした。それで公務員も選択肢に入れたのであって、とくに強い思い入れがあったわけではないです。

縁あって市長になりましたが、それも運命だったかと思います。そもそも私はトップに仕えるタイプで、副市長をやっていた時が一番やり甲斐がありました。

前市長は3期12年市長職を務めました。そして4期目の選挙に当選したものの、半年ほどで辞任し参議院選挙に出馬しました。「4選を果たした挙句に半年で辞任」と全国ニュースになったほどです。

私はその市長に任命された副市長ですから、当然、いっしょに辞任するつもりでした。でもトップの2人が不在となることで、市政へ悪影響を与える恐れがあることから、たいへん迷った末、市長選に出馬することを決めました。ただ「前市長の後継者」と見る市民も多く、非常に不利な選挙ではありました。

副市長だった頃に、市政に今何が求められているかはわかっていました。それで選挙では重要な政策として20項目程を訴えました。その結果、僅差ではありましたが、市民の皆様からご支持いただき当選させていただきました。

—— 市長としてこれからどのような御殿場市を築かれようとしていますか？

いろいろありますが、一つは「富士山の自然」「観光都市」に加え、東京オリンピックのレガシーを活かした「スポーツタウン御殿場」を目指しています。

まずサイクリング。もともと富士山一周とかヒルクライムとか、子どものサイクリングやマウンテンバイクのレースなどいろいろやってきました。東京2020オリンピックではロードレース会場として市内を駆け抜け、子どもから大人までみんなで応援しました。

それから空手。私立の御殿場西高等学校の空手道部が全国高校総体で大会史上初の4連覇という偉業を達成しています。東京オリンピックでは、イタリアの空手選手団のホストタウンでした。ここで合宿したイタリアの選手が、金メダルと銀メダルを獲得しています。本市には自衛隊さんもいるので柔剣道など武道も盛んです。武道館を造ろうという話も出ているんですよ。

もう一つは若い力の活用です。高齢化率は県下でも低く、若い年代が多いです。高校生や中学生が中心になって行うイベントにはたくさんの人が来られます。それを行政が支援することで「若者が元気になるまち」を目指しています。将来的に若者がUターンし、結婚し、住んでもらえれば、人口増加に繋がると思います。

若い人たちは行政にも関心を持ってきています。選挙の模擬投票や一日市長体験にもたくさんの高校生が参加してくれたり、中学生による議場での討論会を開催したこともありました。市も時には中高生からの提案を受け入れ形にしているので、その分やりがいを感じてくれているのではないのでしょうか。子どもたちは本当に積極的に参加してくれていると感じています。

—— 最後に改めて伺いますが、地方公務員というのはどういうものですか。

例えば都道府県の職員も地方公務員ですが、仕事で直接住民と向き合うのは各市町村です。それだけに苦しいことも嬉しいことも直接共有できる。これが都道府県の公務員とはちょっと違うところで、この近い距離間がまた逆に面白いというか。市民、とくに子どもやお年寄りに感謝されると、それが嬉しい、面白いと思える人が向いていますね。

また以前、選抜基準はまず学力でしたが、今は違います。もちろん筆記試験はありますが、それは多すぎる応募者を絞るためで、大切なのは面接です。必ず聞かれるのは友達のこと。友達がなくて、飲んだり騒いだり仲良くやっていくのが好きな人は評価が高い。学生時代にアルバイトでも遊びでも勉強でもいろんなことをやって、広い視野を持った人が求められています。

みんなが集う広場

TMUプラザ

TMU 創業者の会

私が2015年に起業した際、高見澤幸夫さん（故人・都立大64年卒・㈱コスモテック創業者）に「会社の色々教えてくれる先輩たちの集まりってないんですか？」と聞いたところ、「うちの大学にそういう会はない」とのことでした。どこの大学にもひとつはあるだろうと思っていた私にとって驚きの回答でした。

会社を起業する際、本業についてはもちろん分かりますが、社会保険や定款、株主間契約や従業員の給与形態などよく分からない（考えるのもめんどくさい？）ことがたくさんあります。もちろん士業*などに聞けば教えてくれますが、四角四面な回答ではなく、ポイントやありがちな失敗事例などをポジショントークなしで助言してくれる先輩がいたら良いのにと思いました。そして、ないなら作ろう！ということで高見澤さんと私が発起人となり19年10月にこの会を始めました。首都大、科技大、保科大、都立大（まとめてTMU）の卒業生で会社を創業した社長から成ります。

具体的な活動として毎月第三水曜日に「三水会」という飲み会を開催しています。

三水会では創業社長同士の情報交換や販路拡大、親睦を深めるだけでなく、起業に興味のある同窓生であれば誰でも参加できます。

三水会の内容はさまざまですが、現役の都立大生が起業のアイデアを発表し、それを創業者の会のメンバーと一っしょにブラッシュアップしたり、創業者の会のメンバーがそれぞれの会社で手伝えることを伝えたりしたこともあります。

ロボットの分野で起業を考えている学生の時は、より専門的な助言ができるようHONDAの現役社員でロボットを研究開発しているTMU卒業生にも参加してもらいました。

23年1月の三水会では、都立大の料理サークル「舞々」に協力いただきワイン会を開催しました。

ワインの選定はTMU卒業生でソムリエ資格のある方をお願いし、ワインの知識や正しいテイasting

*士業（しぎょう・さむらいぎょう）：名称末尾が「士」の職業（弁護士、司法書士など）の俗称。医師、薬剤師など「師」の職業を含め、士師業（師士業、ししぎょう）とも呼ばれる。



ワイン会（23年1月）

の仕方なども楽しく学びました。この会には都立大の地域イノベーションセンターの責任者である楊教授にもご参加いただきました。

三水会は学内だけでなく、例えば東工大の同窓会（蔵前工業会）の中の創業者コミュニティとも交流があります。この時は、創業者コミュニティ東京支部の代表者や東工大の常勤監事でもあり国立大学法人等監事協議会の会長でもある小倉康嗣さんにも参加いただき大いに盛り上がりました。



東工大蔵前工業会創業者コミュニティとの交流

TMU 創業者の会は都立大発ベンチャー企業を増やしていこうという母校の活動に協力していきます。

ご興味がある方はぜひ三水会に遊びに来て下さい！創業者の会事務局（info@tmuentre.jp）までご連絡いただければ私が返信します。また、創業者の会では、創業している同窓生を把握することに努めています。同窓生で起業している方をご存知でしたら先のメールアドレスまでメールをいただけると嬉しいです。我々創業者の会の会員の経営経験が、後に続く後輩たちの役に立てればと思っています。TMU 創業者の会をよろしくお願い致します。

鯉淵 滋（都立大05年卒・電気工学科）

MY 八雲会

MY 八雲会（エムワイヤクモ会）は2012年に明治安田生命に勤務する都立大OBOGの会として発足し

ました。明治安田生命はその名のとおりに、04年に明治生命と安田生命が統合して誕生した会社ですが、それぞれの会社でもOBOG会は不定期に開かれていたものの、新会社となってからは特に集まる機会もありませんでした。

私が当時在籍しておりました広報部は部員十数名でしたが、都立大のOBが3人所属するという偶然もあり、またとない機会だと手分けして社内の同窓生に声掛けし、41名でスタートしました。

ご承知のように同窓生は他大学に比べ圧倒的に少ないものの、会社が統合したことで同期が増えたり、サークルの先輩・後輩とのうれしい出会いがあったりしました。当時のメンバーは半数以上が八雲校舎に通ったので、会の名前の由来となりました。

MY八雲会の主な活動は年1回の懇親会開催です。勤務地が全国各地にわかれているため、参加できるメンバーは本社および関東近郊のメンバーに限られてしまっていますが、会にあわせて帰京するメンバーもあり、毎回楽しく交流を深めています。当社には伝統と書いていいものか、照会事項があっても他部署への連絡がしづらい空気が残念ながらあるのですが、同じ大学のOBOGだと分かったことで親近感が生まれ、仕事もしやすくなりました。



今年の「みやこの集い」(2月4日)に参加したメンバー

メンバーは定年退職等で退会される方と新しく入ってくる新入社員とで入れ替わりますが、新卒採用者数が減少したことに伴い、新入会員がここ数年おらず、現在のメンバーは32名になっています。

23年2月4日の『みやこの集い』の参加は4名でしたが、社内で案内する際、21年卒の新入社員や関連会社勤務の新入会員がいることがわかり、うれしいニュースとなりました。次回の『みやこの集い』にはより多くの同窓生が参加し、さらに他企業の同窓生の皆さまとの交流もさせていただきたいと考えています。

山崎 潤哉 (都立大91年卒・経済学科)

大成建設八雲会

当会は大成建設に在籍する東京都立大学および首都大学東京OBOGの126名で構成されています(2023年3月10日時点)。大成建設の社員は建築系・土木系・事務系の3つの職種に分かれており、業務上、すべての職種が変わることは多くないのですが、当会では職種の垣根なく活動を行っています。

残念ながら、コロナ禍においては開催できていませんが、従来は年に1回、全職種の社員が集まって懇親会を開催し、1人ずつ現在携わっているプロジェクトやプライベートの近況等を報告しています。

業務で接する機会が少ない職種の社員と交流することで、親睦を深めるのはもちろんのこと、お互いがどのような業務に取り組んでいるのか理解し、困ったときに相談しあえる関係を築くことができるため、業務を円滑に進める助けにもなっています。また、職種ごとでも不定期に懇親会を開催し、新入社員との顔合わせ等を行っています。

当会の魅力として、規模が大き過ぎず小さ過ぎないので、お互いの距離が近く、アットホームな点が挙げられます。大成建設の仕事に興味をお持ちの方がいれば、OBOG一同全力でサポートいたしますので、お気軽にご相談ください。

高橋 元気 (首都大14年卒・都市教養学科)

日立八雲会

日立八雲会は、日立製作所とそのグループ会社に所属する現役社員ならびに退職されたOBOGで構成されています。会員相互の親睦を図り、母校ならびに日立製作所および日立グループの発展に貢献することを目的として、故・大竹三郎氏(54年卒 経済)を初代会長として91年に結成され、現在では第1期生を含む総勢250名を超える会員数となっています。

本会は、顧問(歴代会長)、会長、副会長、地区幹事、および会計監査からなる幹事会で円滑に運営されており、原則年1回(毎年5月の第3金曜日)の総会・同窓会を開催しています。総会では、会長の挨拶、規約の確認、および幹事会の承認が行われ、その後、顧問の乾杯を皮切りに、参加者の近況報告を中心に歓談が行われます。

また、本会は日立製作所およびグループ会社の採用プロジェクトとも密に連携しており、採用活動状況の報告も共有されます。新入社員および入社2年目で初参加の方は招待制で、諸先輩の前で初心の決意表明を行うなど、限られた時間ですが和気あいあいとしたひとときを楽しんでいます。最後には記念撮影が行われ、

来年また元気な姿で会えることを誓いあって閉会します。19年の第34回総会・同窓会までは、例年、都内の会社施設などで約40名の会員が参加していましたが、コロナ禍で20、21年は開催できませんでした。その間も幹事会では、何とか会員間の交流を図れないかと検討し、22年は第35回総会・同窓会をオンラインで開催し、ブレイクアウトルームを活用して、画面を通してではありましたが、参加者同士の元気な様子を共有し、楽しいひと時を過ごすことができました。



オンライン開催に参加のメンバー

23年の第36回総会・同窓会も5月19日金曜日に昨年同様オンラインで盛大に開催いたしました。来年(24年)は以前のような対面での交流を行いたいと考えています。

これからも同窓生をたくさん迎え入れ、これまで以上に本会を盛り上げていくと同時に、この同窓生のつながりが仕事をする上でのネットワークとしても活かせることを期待しています。

日立八雲会の掛軸

寺前 俊哉

(都立大92年卒・機械工学科)



東京都立大学土木会

土木会会員は、都市基盤環境学科/学域及びその前身である土木工学科/専攻の卒業生/修了生です。1950年から22年卒業までの登録会員数は3045名となっています。ただし残念ながら、そのうちの3分の1ほどが連絡先不明(物故者178名含め)です。また連絡手段が郵送のみが約820名、メルアド登録者が約1200名で、デジタル環境が十分でない先輩方やメルアド不明会員への情報伝達手段が課題となっています。

22年10月には会員への情報発信を目的に、土木会

メールマガジン第1号、23年1月に第2号を配信しました。まだ非常にシンプルな記事の配信だけですが、情報共有のほか、会員相互の交流発展に寄与することを目指しています。

土木会では、基本的に8月の最終金曜日に総会を開催し、前年度事業・決算報告、当該年度の事業計画・予算審議を行うほか、会員による特別講演、母校の学科長からの学内近況報告を伺い、最後は立食形式の懇親会で交流を図っています。

21・22年度はリアルまたはオンラインのハイブリッド形式での開催になりました。22年度は学科で現役の先生方の半分ほどが参加していただき、取り組んでいる研究テーマ等について直接伺い、先生方をより身近に感じることができました。



22年度土木会総会(会場参加者 於:国際交流会館)

また、これまでの小冊子による土木会会報の発行(年1回・7月)を、23年度からはWeb会報へ移行することとしました。土木会HPへ、会員の皆さんが気軽にアクセスして欲しいと思っています。

在校生との交流にも取り組んでいます。学生が5年後の自分を想像し、土木職の魅力・意義を考える機会になればと、卒業後5年程度の若手OBOGが、現在の業務内容や学生時代にどうしているかを考えながら学生生活を送っていたかを紹介し、意見交換します。



若手OBOGと在校生の意見交換会。年齢も比較的近いので、気楽に話ができているようです。

22年度は9月30日午後、10業種・17組織のOBOG21名(大学に16名、オンラインで5名)、学

部生 54 名、院生 11 名、さらに土木会と学生との橋渡しをしていただいている先生 4 名が参加しました。

また OBOG は、夕方から学科／学域全体で行なわれた土木交流会（留学生の送別会も兼ねている）にも参加し、多くの先生方や在校生と交流していました。

都市基盤環境学科／学域では毎年、卒業式に合わせて、謝恩会が開催されるので、その席で学生たちの 4 年または 6 年間の頑張りを称えるため、学部生、大学院生のそれぞれ 3 名に、土木会会長賞を授与しています。賞状と図書カード程度ですが、今後のさらなる励みになってくれれば、と思っています。

宇治 公隆（都立大 78 年卒・土木工学科）

エリカ混声合唱団

エリカ混声合唱団は、1959 年に東京都立大学生と実践女子大学生による混声合唱団として創立し、現在は、東京都立大（旧首都大学東京）学生で構成されており、23 年には創立 64 周年となります。

エリカ混声合唱団の OBOG 会としては、62 年から「OBOG の集い」を随時開催、91 年より「エリカの会」名称にて組織化し、「エリカ混声合唱団の活動支援」と「会員相互の親睦を図る」を目的に、

- ・「エリカの会」事務局から会員へメール等でエリカ混声合唱団の活動状況（演奏会大学祭等）情報共有
- ・エリカ混声合唱団への寄贈品（電子ピアノ等）寄贈等の活動支援
- ・毎年のエリカ混声合唱団 定期演奏会への OBOG 来場・鑑賞の活動支援
- ・創立 5 周年区切りのエリカ混声合唱団定期演奏会での現役・OBOG 合同ステージの参画
- ・会員相互の親睦のための「OBOG の集い等の同窓会」開催

等を実施しております。

「エリカの会」の運営は、5 年毎の総会、必要に応じての臨時総会・世話人会を開催し、運営しております。

なお、会員は東京都立大学（旧首都大学東京）・実践女子大学の卒業生で構成され、現在は約 800 名程です。

20 年からのコロナ禍で OBOG 集っての「OBOG の集い等の同窓会」は開催できておりませんが、「エリカの会」事務局から、定期的にメール等で会員の皆さんへ情報共有を図っております。

また、現役執行部と密な連絡を取り、コロナ禍で現役活動状況を把握し、21 年「エリカの会」として寄付を募り、「コロナ禍活動支援金」寄付等の活動支援を実施しております。

22 年 12 月 24 日、第 50 回エリカ混声合唱団定期演奏会の懇親会の場においても、OBOG メンバーと現役メンバーとの交流を図り、親睦を深めています。次



19 年 48 回定期演奏会（創立 60 周年）OBOG 合同ステージ

の第 51 回エリカ混声合唱団定期演奏会は、23 年 12 月 28 日です。多くの OBOG メンバーが集って、現役演奏会活動支援にうかがいます。

近藤 卓雅（都立大 83 年卒・電気工学科）

ラグビー部 OBOG 会

ラグビー部は 1959 年に同好会として発足し、2 年後の 61 年に創部されました。OB 会は 76 年に設立されましたが、昨今のジェンダー平等の観点から、昨年「東京都立大学ラグビー部 OBOG 会」に名称変更しました。会員は現在のところ同好会発足時の 1 回生から 22 年に卒業した 61 回生までで約 360 名が登録されています。

コロナ禍の影響で試合の観戦や応援ができなくなったことで現役との交流がなくなり、また外出や外食の制限で OBOG 同士の交流も難しくなり、会の活動も制約されてしまいました。このような状況下において、活動を継続・活性化する目的で、昨年 E メールを活用した連絡網の構築を計画、実行しました。

まず期ごとに連絡員を 1 名設定し、OBOG 会事務局からの連絡を各連絡員に送信し、連絡員から同期メンバーに転送してもらうというものです。

従来、連絡は郵送で行なっていましたが、E メールを利用することで郵送に関わる手間や費用を削減することができ、さらにタイムリーに情報を発信できるようになりました。

幸いなことに昨シーズンの始まりから試合ができるようになり、徐々に制限が緩和されて試合観戦もできるようになったので、動画で撮影した試合の様子も配信するようになりました。試合会場で観戦できない OBOG も、現役を身近に感じてもらったのではないかと思います。しかし連絡員を設定できていない期や連絡先のわからない方もいて、連絡先を把握できているのは会員の 6 割程度となっています。

新しい試みとして OBOG 同士の交流を目的とした初めてのゴルフコンペを昨年 11 月に開催しました。平日開催ということで参加人数は少なかったですが、



ラグビー部 OBOG会 23年新年会

今までお目にかかることのなかった先輩、後輩とプレーして交流することができました。そして今年4月29日に2回目のコンペが行われました。土曜日の開催で、4名が参加してくれました。

また、今年1月に久しぶりに新年会を開催し、2回生～30回生の21名のOBが集まりました。話がはずんで尽きない、あっという間の2時間でした。しかし30回生以降の参加がなく、今後は若手のOBOGの積極的な参加を期待しているところです。

一方、これらいずれのイベントにもOGの参加はありませんでした。名称の変更を機会にOGの皆さんにもイベントへ参加してもらえよう働きかけをしていこうと思います。

今後コロナの状況がどうなるかはわかりませんが、世の中はウィズ・コロナの方向に向かっており、以前のように行動が制限されることはないと思われことから、コロナ以前よりもOBOG会の活動を盛り上げられるように活動していきたいと思えます。

三國 博之（都立大83年卒・化学科）

「八雲艇友会」漕艇部OB会

都立大体育会会員の各部の皆さん、周年記念行事をどうなさっていますか？

我が漕艇部は1949年11月1日に創部し、翌50年5月1日の運動部連合（現体育会）設立に際して、当日登録したとの記録が残っています。

運動部連合設立時の所属は12～13部だったとあります。それらの部及びその後創部した各部は、それぞれどのように毎年の（OBと現役）会合を行い、周年記念行事を企画し、実施しているのでしょうか？

誌面を借りて呼びかけます。そろそろ情報交換しませんか？ また周年記念行事等の参考データをご希望でしたら、同窓会事務局経由でご連絡ください。

ちなみに我が漕艇部は59年1月24日のOB会（八雲艇友会）の設立総会以来、毎年のOB総会の開催と、以下の周年記念式典を実施してきました。

- 30周年記念式典：79年11月3日 東京駅ステーションホテル 参加91名
招待者＝17名：都漕艇協会会長・大学総長（代理）・体育科・学生課・同窓会会長・府立大漕艇部OB会・千葉大漕艇部OB会・元部長・元コーチ
OB会員＝59名・当時の部長＋現役14名
- 50周年記念式典：99年11月3日 新宿モリス 参加132名
招待者＝13名：都漕艇協会会長（代理）・大学総長・同窓会会長（代理）・府立大漕艇部OB会・合宿所の家主・元部長・元コーチ
OB会員＝105名・当時の部長＋現役13名
- 70周年記念式典：19年11月23日 ルヴェゾンヴェール南大沢（南大沢キャンパス構内） 参加102名
招待者＝21名：都ボート協会会長（代理）・大学学長・人間健康科・学生課長・同窓会会長（代理）・府立大・千葉大・医科歯科大・共立女子大・日本医大（各ボート部OB会と現役）・都立大硬式野球・サッカー・男子バスケ・ラグビー（各OB会）・元部長・元コーチ
OB会員＝67名・当時の部長＋現役13名



式典では、上野学長より、「大学としては、名称変更があった関係で、大学全体での創立70周年を祝い辛い中、ボート部の創部70周年記念式典に招待を受け、祝辞を述べるができることを大変うれしく思う」とのスピーチをいただきました。

OB総会については、昨今のコロナ禍では郵送形式での開催を余儀なくされた後、今年3月25日（第64回）は感染状況や医療提供体制等に注意を払いつつ、対面で開催しましたが、終了後の懇親会は残念ながら中止しました。

米山 哲夫（都立大75年卒 地理学科）

「八畳会」柔道部OB会

八畳会の正式名称は『東京都立大学・首都大学東京八畳会』です。母校の以前の所在地、目黒区八雲の「八」と柔道場の「畳」を合わせたのが由来です。

1955年の創設で、東京都立大学及び首都大学東京柔道部出身者を会員、現役柔道部員を準会員とし、現在の会員数は名簿上300名になります。会員相互の親睦及び現役柔道部への活動援助を目的に、年1回以上会合を行い、親睦を図っており、毎年江東区にある都立清澄庭園内の大正記念館で全体新年会を行っています。

今年は4年ぶりに開催しました。コロナの影響が完全に収まっていないせいか、現役も含め40人程度の出席でしたが、近況や昔日の語らいで大いに盛り上がった会となりました。

また、会報の発行を行い、八畳会の活動報告、会員の風の便りや近況、現役の試合や催しに関する活動報告等を載せるなどの広報活動を充実させ、同期会の促進にも努め、八畳会会員相互の親睦が深められるようにしています。



大正記念館での全体新年会（23年3月4日）

一方、最近の現役への活動援助は、部員確保に対する支援を強化しています。

柔道に対する3Kのイメージや柔道人口の減少、さらに、コロナの影響による登校制限もあり、部としての活動、部員勧誘・確保が思うようにできなかったため、新入部員が少なくなってきました。八畳会はこの状況を70年も続いた柔道部存続の危機と捉え、部員の確保を喫緊の課題としてOB・現役が一体となり部員確保に力を注いでいます。

好きな人が入部した古き良き時代、興味を持つ人を招いた時代の踏襲やサークル紹介などの春先イベントの単発繰り返しだけではなく、柔道に興味を持ってもらえる仕掛け作りが必要と考え、継続的に新入生に入部してもらえる仕組み作りを昨年より始めています。

この他に大阪公立大戦、横浜市大戦、東京国公立大学戦などの定期戦への応援、あるいは審判としての参加もしております。加えて、現役・OB交流会や大学祭の折に現役が開くおでん屋への参加を通じて現役柔道部との親交を深めております。

宮田 保美（都立大75年卒・土木工学科）



大阪公立大戦での応援（22年7月2日）

—より深い創造的な生き方を応援するために—

一般社団法人 甲府心理臨床研究所

所長・代表理事 篠原 恵美 首都大大学院博士後期課程
人文科学研究科人間科学専攻心理学分野 2015年修了

- カウンセリング・心理療法
- スーパーヴィジョン
- 心理学セミナー・定例研修会

〒400-0858 山梨県甲府市相生 1-2-31-502
TEL&FAX 055-298-6531
Email: kofushinri@ar.wakwak.com
URL: <http://kofushinri.jp>



QRコードを読み取って
ご覧ください

つなぐ **〈特別版〉** **研究室紹介** シリーズ

牧野富太郎博士が採集した
植物標本など50万点を収蔵

牧野標本館

加藤英寿(理学研究科生命科学専攻)

今春4月から始まったNHKテレビの朝の連続ドラマ『らんまん』の主人公・榎野万太郎は日本の植物学の父・牧野富太郎博士がモデルになっています。本学にはその牧野博士が採取した膨大な植物標本を収めた施設『牧野標本館』があることをご存知でしたか？



シラスゲを手にした牧野富太郎博士 (1904年)
写真提供：高知県立牧野植物園

なぜ母校に牧野標本館があるのか

牧野標本館は、日本の植物分類学の基礎を築いた牧野富太郎博士(1862～1957年)の没後、ご遺族から東京都に寄贈された植物標本(牧野標本)をもとに、1958年6月に設立されました。

牧野標本館が母校に設置された経緯については『牧野標本館50周年記念誌』(08年刊)に詳しく書かれています。これによると牧野博士の晩年に、博士が生涯をかけて集めた膨大な腊葉標本(さくようひょう

ほん：押し葉標本)を整理して、研究資料に活かそうという動きが進められていたようです。

牧野標本は、明治から昭和の時代に日本のほぼ全域から採集され、牧野博士が新種として発表したタイプ標本や、今では絶滅してしまった標本などが多数含まれる、非常に貴重なものだからです。

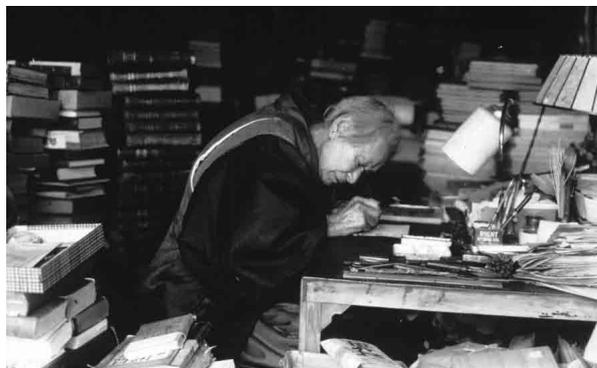
しかしながらその量が多すぎて膨大だったため、国や東京大学からは受け入れを断られてしまいました。最終的に、牧野博士が名誉都民第一号ということもあって東京都が受け入れることになりました。そして50年に発足したばかりの母校に『牧野標本館』が設置され、学術資料として研究体制に組み込まれることになった、とのことでした。

整理作業に23年

練馬区大泉の牧野邸から世田谷キャンパスに運ばれた牧野標本の搬入には、4tトラック延べ10台が必要となり、アルバイト学生10名が5日間かけて作業したと伝えられています。

搬入された牧野標本は、埃まみれで古新聞に挟まれたままの状態でした。そのため、まずは刷毛で埃を払い落とす作業から始まりました。そして、新聞紙やメモに記入された採集地や採集年月日・採集者名などを標本ラベルに記入→各分類群の専門家に同定を依頼してラベルに学名を記入→台紙に標本と標本ラベルを貼り付ける→種ごとにまとめてカバーで挟んで標本棚に配架、という気の遠くなるような整理作業が延々と続きました。

その結果、標本館開設から23年目の81年度末に、ようやく整理作業がほぼ完了しました。そして翌82年度から理学部に植物系統分類学講座が新設され、当該講座の教員が牧野標本館を兼務する現在の体制ができたのです。



書齋にて

写真提供：高知県立牧野植物園

標本館の充実化

91年の母校の八王子移転に伴い、牧野標本館も移動式標本棚を備えた標本庫(収容能力50万点)に変わりました。しかしながら牧野標本以外にも多方面から

の標本を受け入れてきたため、標本数は毎年数1000～1万点も増え続け、05年には標本庫が飽和状態となっていました。棚に入りきれない標本を前に途方に暮れた講座の教員たちは、標本庫の窮状を訴え続けていましたが、社会全体に基礎科学軽視の傾向が強まる風潮に、絶望感も漂っていました。



牧野標本館本館



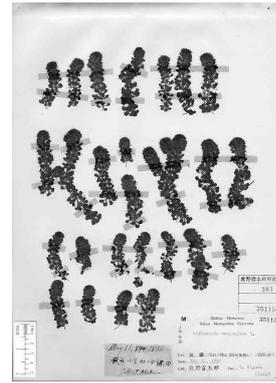
18年に増築された別館(中央奥の2階建ての建物、手前の細長い部分はTMUギャラリー)



別館収蔵庫の1階、各レーンは電動で開閉できる。2階にも同じ設備があり、標本棚の数は15段×18列×108レーン(本館は42レーン)で計2万9160(本館は1万1340)を有する。

ようやく標本庫の拡充が認められたのは11年で、それから7年後の18年3月、旧館(本館)の向いに収容能力125万点を有する牧野標本館別館が完成しました。別館の増築により標本数も順調に増加していき、22年3月末時点の整理済み標本は、維管束植物50万4862点、コケ植物4万1649点、地衣類1166点、藻類2万4518点、菌類492点に達しています。

牧野標本館の収蔵品には牧野標本(約16万点)に加え、国内外の標本館との標本交換で得られた標本、本学スタッフや学生による採集品、国内外の協力者・市民科学者からの寄贈標本、江戸時代にシーボルトが収集した標本(シーボルトコレクション)などが含まれます。また小笠原諸島やヒマラヤ、中国、中央アジア、



牧野博士が1890年に国内で初めて確認・採集したムジナモの標本。その後、国内のほとんどの自生地から姿を消した。

南米等で採集された標本も多数収蔵されており、植物の特徴や分布・生育状況など、生物多様性を理解するためのもっとも基礎的かつ重要な情報源として、幅広い分野の学術研究に活用されています。

総標本数では国内で5番目、学術的価値の高いタイプ標本数では国内4番目のレベルにあります。タイプ標本とは、ある植物の学名の証拠となるただ一つの標本で、これを公共の標本館に永久に保存することが『国際植物命名規約』で定められています。こうしたことから牧野標本館は世界的に主要な標本館の一つとして認知され、国際記号でMAKと標記されています。

Welcome to Makino Herbarium

98年から、学術情報の基礎インフラ整備のため、法政大学などと連携して植物標本のデジタル化と情報発信に取り組んでいます。01年には『牧野標本館所蔵タイプ標本データベース』、04年には『牧野標本館所蔵シーボルトコレクションデータベース』をWeb公開しました。さらに15年からは東京都及び隣接県産の植物標本を画像データベース化した『東京都植物誌デジタル版』の公開も進めています。

また牧野標本館別館の南側には、全学的に利用できるTMUギャラリーがあって、植物標本などに関する企画展を年1～2回開催しています。標本庫は管理上の事情で非公開ですが、本館の玄関ホールに開設している展示コーナーでは、牧野博士が作成した標本や自筆のスケッチなどを自由に観ることができます。

これらのデータベースや企画展などのお知らせは、牧野標本館のホームページをご覧ください。

<https://www.biol.se.tmu.ac.jp/herbarium/>



支部だより

□ 北海道支部

東京都立大学同窓会北海道支部の2022年総会が11月19日、ホテル札幌ガーデンパレスで開催されました。支部会員21人に加え、東京から吉田雅俊会長、山川徹理事、さらに大橋隆哉学長に出席していただき、和やかに懇親を深めました。

コロナ等の影響で、支部総会開催は18年12月以来、4年ぶりです。冒頭、松田敏一支部長が4年間の空白の経緯説明とお詫びをしたのち、吉田会長から「東京本部と支部の連携を深めていきます」とご挨拶をいただきました。吉田会長が、北海道出身との話も披露され、会場の雰囲気はいっそう盛り上がりました。

議事では、監査報告と活動計画が承認され、役員改選で新支部長に辻泰弘・前北海道副知事（都78年卒・経済）を選出しました。

続く懇親会で大橋学長から、都立大の現状や今後の方針を説明していただきました。「基礎学力の維持、向上を図りながら、研究力と国際性を培います」と、プロジェクターを使った、わかりやすく説得性のある内容に、出席者も熱心に耳を傾けていました。全員が自己紹介で、現況や学生時代の思い出を語り、皆がひと時、若かったときにタイムスリップしていました。

近くの居酒屋に会場を移した二次会にも、多くの参加があり、「若い支部会員を増やしていこう」「もっと本部とつながりを深めよう」と、これからの活動方針などを肴に、楽しいおしゃべりが続きました。

北海道支部では、毎年総会を開催しているほか、「二水会」と称して月に1回（原則第2水曜日）、札幌市内の居酒屋で有志による懇親会を開催しています。毎月10名前後の方が参加しており、総会に初めて参加したことをきっかけに参加された方など、それぞれ仕事の近況や母校在学当時の思い出話などに花を咲かせています。また、ゴルフ好きの有志によるコンペも年に数回開催しており、二水会の場でコンペ開催の打合せも行われています。

二水会は今後も継続的に開いていく予定です。同窓生であれば、飛び入り歓迎です。

同窓会名簿による声掛けや新聞記事などで「都立大卒業」と知った方に連絡するなど積極的な参加促進に努めておりますので、北海道支部未加入の同窓生をご

存じでしたら、ぜひご紹介をお願いします。

鳴海 拓史（都立大86年卒・心理）

□ 中部支部

さる4月9日（日）に名古屋市港区の名古屋ポートビルにおいて総会を開催しました。先회가2019年ですので、じつに3年間のコロナ禍ブランクを空けての開催となりました。同窓会本部からは松本公一副会長の臨席を賜りました。また母校と長いお付き合いを頂く大阪公立大学の名古屋校友会伊藤聡会長と岡野勝幹事長にも臨席を賜り、総数で14名の参加となりました。

会長からご挨拶と母校の学生生活の様子、同窓会の現状をお話し頂き、公立大学名古屋校友会会長からは大学合併に伴う校友会の合併推移についてのお話を頂きました。続いて会計・監査報告及び役員人事変更報告として幹事長を、宮本から若手の渡辺へのバトンタッチが了承されました。

質疑応答では公大校友会会長から、将来の幹事として若手のサポーター制度もありではないかのご提案を戴きました。また他会員からは、総会のオンライン参加も検討の余地があるのでは、との意見も頂きました。

会員のトピックス報告としては、まず春日部英輝さん（都93年卒 化学科）が、実家の寺で粗略に扱っていた仏教絵画が三重県の重文になった経緯、明治初期の廃仏毀釈時に浄土真宗が優遇された話をされました。

また利光章さん（都73年卒 電気学科）から、趣味のマラソンが徐々にコロナ前のレベルに戻り、特に高倍率の東京マラソンに参加できた話、幹事長の宮本公隆さん（都75年卒）から鳩時計修理工房を始めたところ、日本では希少な店となったためか思わぬ反響があり、修理依頼が多数寄せられて嬉しい悲鳴をあげている話などを発表していただきました。

その後は同じビル内のレストランで懇親会を開き旧交を温めました。久しぶりに顔を合わせたためか積もる話も多く、歓談は尽きませんでした。食後は同ビル内の展望室、海洋博物館を見学しました。

会員誰もがこのコロナ禍で外出を自粛しており、久しぶりに外出して清々しい名古屋港の潮風に当たり、爽快な気分浸って穏やかな休日を満喫しました。

岩間 淳三（都立大86年卒・院独文）

連絡先 E mail : nezu0202@sage.ocn.ne.jp

□ 関西支部

第28回の「関西支部の集い」は、22年7月9日（土）に日本綿業会館で、22名の参加と同窓会の奥田副会長、母校の大橋学長をお迎えし、開催いたしました。

「集い」では、塩見育子さん（都03年卒 政治）の司会進行で関西支部 松見会長（都68年卒 経済）の

挨拶（体調不良により欠席、根津事務局長代読）に続き、来賓の奥田副会長から同窓会本部の情報をご挨拶に合わせてお話しいただきました。その後、大橋学長から開催の祝辞を頂戴しました。

乾杯音頭は関西支部の芦沢副会長（都69年卒 建築）が行い、ひとときの宴と歓談の後、支部総会を行いました。

議題は ①収支決算報告、②同窓会関西支部規約改定、③役員改選の3件で、根津事務局長（都84年卒 建築）から報告し、全会一致で承認されました。また役員改選で、関西支部会長が4年間務めた松見豊和さんから芦沢会長に交代するなど、新体制になりました。

関西支部 新役員（すべて都立大卒）

会 長	芦 沢 清 隆	69 卒	建 築
副 会 長	船 川 和 夫	70 卒	化 学
	山 井 愛 樹	89 卒	地 理
事 務 局 長	根 津 嗣 郎	84 卒	建 築
幹 事	松 見 豊 和	64 卒	経 済
	大 内 恵 子	66 卒	英 文
	川 瀬 悌 弘	96 卒	数 学
	塩 見 吉 伸	00 卒	土 木
	比 嘉 英 樹	00 卒	生 物

次に大橋学長から「東京都立大学の今」と題し、ミニ講演をしていただきました。母校の最近の状況や、学長がどのような大学にされようとしているのか、また母校のさまざまな活動をお話しいただきました。私たちが在学していたころより、ずっと国際的・全国的に活動が広がっていて感心しました。

恒例のスピーチでは、同窓生のコロナ禍中での過ごし方の変化や、趣味や仕事の話に触れることができました。とくに初参加の方も、同窓生それぞれの人となりを知ることができ、会員間のつながりに通じるものになったことと思います。

コロナ禍の中での開催となり、食事を配膳方式とするなど衛生管理に配慮した開催としました。しかし、たとえば案内はがきの返信に「会社から、まだ食事を伴う集会への参加は避けるように」との指示が出ていると書かれていたりして、参加者が少なくなってしまったことが残念でした。

とはいえ参加者が少ない会のためか、お互いにゆっくり会話をする機会を持って、とても親睦の深まる機会となりました。このつながりを広げ、深めてゆくことが支部の務めであると感じております。

関西支部の会員は名簿記載人数934名となります。今後もこの支部活動を維持発展させていきたいと考えています。

是非一度ご参加いただき、世代を超えた「つながり」を深めたいと思っていますのでお気軽にお越しください。関西在住の皆様、来年も初夏には「関西支部の集い」を幹事一同、企画を凝らして開催いたしますので、是非参加をお願いします。

根津 嗣郎（都立大84年卒・建築）

□ 九州支部

同窓生の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。同窓会九州支部の活動報告をさせていただきます。

九州支部という名称ですが、じつは年1回10月に開催している総会・懇親会は福岡市での開催のため、案内対象を福岡・熊本・佐賀の3県在住の同窓生に限っていました。

というのも、福岡市は九州の北部に位置しており、鹿児島からは300km、長崎からは150km、大分・宮崎からは150～250kmもあり、しかも九州山脈を越えるため、交通のアクセスがあまり良くはなく、参加するには時間的・経済的な負担が軽くないからです。

そこで3年前の幹事会で、本当の「九州支部」になるため、九州を東西南北4地区に分け、それぞれの地区で懇親会を開催することで「九州支部」の役割を果たそうという事になったのです。

そしてコロナウィルスの5類への移行を機に、取り決めを本格的な活動にうつすことにしました。まず西九州地区が3月21日に長崎市で懇親会を開催しました。福岡市以外での同窓会の開催は初めてです。

出した案内は64名で、参加者は5名。少ないと思われるかもしれませんが、各学年に1名程度しかおらず、横のつながりも縦のつながりもないなかで5名の参加が得られたのは大きな前進です。

懇親会は大いに盛り上がり、次の開催ではさらに多くの参加が見込めるのではと確信しました。同窓生がまったくいない世界で仕事をしてきた参加者には、かなりの刺激があったように見えました。

年内には宮崎市で南九州地区の懇親会を予定しています。将来的には各県に拠点を置いて、県単位の懇親会をできるような体制を作っていく予定です。

今まで置き去りにになっていた九州の同窓生に、少しでも同窓会の存在を知っていただき、仲間を増やしていきたいと思っています。

ちなみに3年前から「ゴルフ同好会」も立ち上げ、年2、3回コンペを開催しています。現時点では北部九州地区だけでの取り組みですが、こちらも拠点になっていただいている方をお願いして、活動の輪を広げていこうと思っています。

小川 省三（都立大78年卒・物理）

2022年度
スポーツ・文化活動賞 同窓会長特別表彰

高い志を持って目標を設定し、困難に対して闘志を失わず、主体性・独創性・独自性を発揮して優れた成果を収めた学生の団体・グループ・個人を表彰します。

1. 受賞団体 競技ダンス部

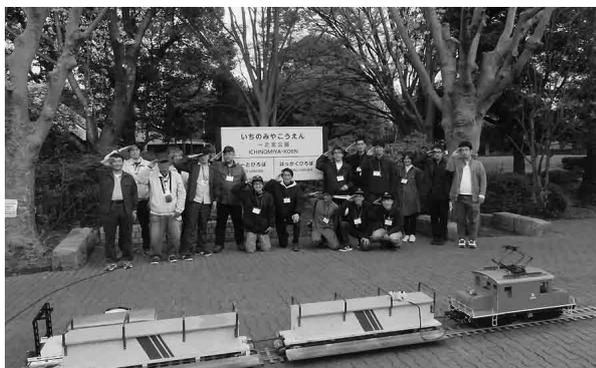
代表者 藤本 孝秀 賞金 1万円
テーマ 全国大会での4位入賞、競技会の開催・外部観客の受け入れ再開への貢献



受賞理由 ダンス競技で東日本4位、全国大会4位は素晴らしいと思います。また競技団体の理事を務めており学外活動への貢献が評価されました。

2. 受賞者 塚本 健太

都市環境学部 都市政策科学科 賞金 2万円



テーマ 寒川町鉄道保存会における史跡保存とまちづくり活動をつなげる試み

受賞理由 線路跡に目を付け新たな活用方法を提案し、10名に及ぶ保存会の代表として地域住民を巻き込みながら活動している点が評価されました。

“優れた成果”とは、必ずしも“すべての人が認める成果”でなくとも、そのために重ねてきた努力も評価対象としています。受賞者・団体には副賞を贈呈(総額40万円内)します。

22年度は応募21件の中から以下の11件に決まり、23年4月6日に表彰式が行われました。

3. 受賞団体 さはらかん*1 TMU AURIGA

代表者 伊藤 奨真 賞金 10万円
テーマ アメリカ・ネバダ州で開催されたCan Sat*2の国際大会 ARLISS2022*3での動作実証と UNISEC*4賞を受賞



打ち上げ前に全員でジャンプ!
(アメリカ・ネバダ州ブラックロック砂漠)



Can Sat

受賞理由 独創的で難易度の高いミッションを実現させることができたのも機体設計など随所に創意工夫があったからだと思います。また、大学の名を国内外に広めることができた点が高評価につながりました。

- * 1:システムデザイン学部宇宙システム研究室(佐原研)の“さはら”とCan Satの“Can”からとったプロジェクト名。
- * 2:350ml缶サイズの超小型人工衛星
- * 3:A Rocket Launch for International Student Satellites
- * 4:University Space Engineering Consortium 大学宇宙工学コンソーシアム:大学生・高等専門学校学生による実践的な宇宙工学活動を支援することを目的とするNPO法人。略称UNISEC:ユニセック。

4. 受賞団体 ラグビー部

代表者 青木 紳悟

賞金 1万円

テーマ 国公立大会での初優勝とリーグ戦最高順位の達成



受賞理由 東京地区国公立大学体育大会初優勝など高い成果を残していることは素晴らしいと思います。

5. 受賞者 伊藤 陽哉

システムデザイン学部機械システム工学科 賞金 2万円



表彰台で歓喜の挨拶！

テーマ 全国国公立大学選手権水泳競技大会での活躍
受賞理由 200m バタフライ7位、100m バタフライ2位と表彰台に乗る快挙が高評価となりました。

6. 受賞団体 テコンドー部

代表者 林 真豊

賞金 1万円

テーマ 日頃の鍛錬で得られた今年度の大会成績

受賞理由 目標を多人数が達成できた点は非常に素晴らしいと思います。



7. 受賞団体 サッカー部

代表者 坂田 大陽

賞金 1万円

テーマ 東京都大学サッカーリーグ1部昇格に向けた取り組み



受賞理由 1部昇格まであと1点という成績のほか、部内での特色ある役割分担の取り組みやSNSフォロワー数1.5倍という点が評価されました。

8. 受賞団体 鳥人間部 T-MIT

代表者 星 瑛徳

賞金 6万円

テーマ 第44回鳥人間コンテスト*2022 人カプロペラ機部門 第3位

受賞理由 連続して出場、上位入賞を果たすことはす



ごく大変なことと思います。21人の総力戦で取り組んで結果を出していることを評価します。

*『鳥人間コンテスト選手権大会』読売テレビ放送主催の人力飛行機の滞空距離および飛行時間を競う競技会。1977年から毎年、滋賀県彦根市の琵琶湖を舞台に開催され、その模様は、読売テレビ制作・日本テレビ系列で全国中継されている。

9. 受賞団体 学生フォーミュラプロジェクト Formula TMU



代表者 根上 航聖 賞金 8万円
 テーマ 第20回 学生フォーミュラ日本大会 2022 へ
 に向けたフォーミュラカー製作と大会参戦
 受賞理由 厳しい車検を通過して完走したという結果

オープンセールスバー新橋

オーナーパートナー 福岡おさむ (首都大 2015年度卒 人文・哲学)

Instagram





Google



新橋駅 徒歩2分の隠れ家BARです！

東京都港区新橋3-18-3 三青ビル2階 TEL 03-6435-6977

と、日本自動車工業会会長賞を受賞したことが高評価になりました。

10. 受賞団体 荒川キャンパス自治会

代表者 吉野 大伍 賞金 2万円
 テーマ 荒川キャンパスを盛り上げるための青鳩祭・イルミネーション企画と実行



受賞理由 キャンパスの仲間を巻き込み成功に導いた点が高い評価につながりました。

11. 受賞者 木須 絢香

人文科学研究科人間科学専攻日本語教育学分野 賞金 6万円
 テーマ 伊豆大島観光大使「椿の女王」としての活動



受賞理由 ミス椿の女王に選出され、多くのイベント等に積極的に参加されていることが評価されました。また、SNSを活用し情報発信に努めていることも素晴らしいと思います。

社会福祉法人 **八王子いちょうの会**



理事長 **山川 徹**
 都立大 1974年卒 法学 (政治)

<http://www.ichounokai.or.jp/>
 TEL(042)673-8055 FAX(042)673-8054
 E-mail : info@ichounokai.or.jp

2023年度
寄付講義『日本の産業と企業』

同窓会は07年度より毎年、講師の選定と費用を負担し、教養科目群の一科目の講義を提供しています。後期ですが、修了すれば2単位が与えられます(毎週のレポート提出と期末試験も課せられます)。毎年200名を超える受講者があり、数ある授業科目の中でも受講者が多い科目の一つのことです。

23年度も「産業別講義」と「プロジェクトに関する講義」の2部、12講義が提供されます。

これまでの講義は、講師や担当教官のご尽力により、学生たちが高い評価を寄せています。毎回、学生からの質問も多く、講師からも「刺激的だった」との感想をいただいています。

なお実施に当たっては、理事会に講師選定委員会を設け、八雲同友会とNPO法人MeCのご協力をいただきながら、OB・OGの中から会社経営に豊富な経験を



担当教官によるガイダンス(22年度)

持ち、産業の発展に貢献した方、あるいはご自身が事業にかかわってこられた方など、できるだけ幅広い分野の講師を依頼しています。

これからもさらに充実した内容にしたいと考えますので、同窓生の皆さまからも講師候補者のお心当たりがありましたら是非ご協力ください。

.....

第1部 産業別講義

1. 丸の内の街づくり～変化を象徴する街～ 23年10月12日
谷澤 淳一 都立大81年卒 経済
三菱地所設計株式会社代表取締役社長

2. 変わりゆくスポーツ産業と今後～グローバル化・デジタル化・ヘルスケア～ 23年10月19日
小泉 政明 都立大88年卒 経済
株式会社アシックス執行役員統括部長

3. 医薬品業界のこれまでと今後の展望～産婦人科のリーディングカンパニーへ～ 23年10月26日
山口 惣大 都立大院08年修了 理化学
あすか製薬株式会社 代表取締役社長

4. 訪日旅行(インバウンド)市場開発の歴史～小田急グループの経験をとおして～
23年11月9日
小柳 淳 都立大81年卒 法律
元小田急トラベル社長・元小田急電鉄取締役・前ホテル小田急社長・旅行作家・書店『街々書林』店主

5. サステナブルな社会の実現に向けて～環境技術で世界に貢献し未来を作る～ 23年11月16日
福沢 義之 都立大90年卒 機械
月島機械株式会社 代表取締役社長

6. 高速道路は未来社会を支えられるか 23年11月30日
末岡 眞純 都立大院76年修了 土木
クスコ・エンジニアリング東北社長・ドイツ連邦共和国在仙台名誉領事

第2部 プロジェクトに関する講義

7. 社会の「不」をビジネスで解決～リクルート、住友商事を経てソーシャルベンチャーへ～
23年12月7日
河野 純子 都立大86年卒 人文
ライフシフト・ジャパン株式会社 取締役CMO

8. あたたかいテクノロジー～レジリエンスをあげるウェルビーイングテック～ 23年12月14日
林 要 科技大院98年修了 システム工学
株式会社GROOV X CEO/Founder

9. 足場を変えながら法と社会を考える 23年12月21日
富田 さとこ 都立大03年卒 法律
弁護士・日本司法センター本部国際室長

10. 医療・病院における診療放射線技師の役割と今後
24年1月4日
鈴木 雄一 保科大04年卒 放射線
東京大学医学部附属病院 副技師長

11. グローバルニッチトップ企業の成長と私のあゆみ
24年1月11日
八木 隆 都立大77年卒 機械
八木技術士事務所 社長・元アイダエンジニアリング(株)取締役常務執行役員

12. なんのために働くのか～働く意義は、なかなか見つからない～
24年1月18日
花岡 正明 都立大院80年修了 機械
日揮株式会社シニアプリンシパルエンジニアコ・アクト室 キャリアコンサルタント

2022年度 プロジェクト奨励賞

本賞は学生の皆さんの生き生きとした企画活動（プロジェクト）に活動資金を提供するもので、2013年

1. 受賞団体 鳥人間部 T-MIT

代表者 星 瑛徳 助成金 15万円
 テーマ 鳥人間コンテスト 2023 に向けた機体の改良
 受賞理由 優秀な結果を残し、大学の名前を世に広めている。また、機体の変更などに工夫がみられ技術的な高さを評価する。



12月に創設されました。各受賞者に「承認書」と「助成金」（総額 100 万円）を授与してきました。

22 年度（第 10 回）への応募は 16 件で、審査の結果、以下の 9 つの団体・サークル・個人に決定し、22 年 8 月 19 日に交付式を行いました。



鳥人間コンテスト 第 6 位 飛行距離 223.09m

2. 受賞団体 ロボコン部 TEXNITIS

代表者 河野 日香 助成金 15万円
 テーマ NHK 学生ロボコン出場のためのロボット製作
 受賞理由 継続的に長く取り組んでいる。良いアイデアや工夫により結果を出し NHK で放映されることを期待している。



3. 受賞団体 人力飛行機研究会 MaPPL

代表者 荒井 徳輝 助成金 15万円
 テーマ 人力飛行機（滑空機）の更なる飛躍を目指して
 受賞理由 優秀な結果を残し、大学の名前を世に広めている。また、性能向上のための工夫がみられる。

4. 受賞団体 さはらかん

代表者 山川 稜太
 テーマ 新技術を搭載した機体で、種子島ロケットコンテスト*で優勝する 助成金 10万円
 受賞理由 技術力の高さが感じられる。今後のロケットコンテストでの成果に期待したい。



Can Sat の
回収テスト

*手作りのロケットや衛星機能モデル（Can Sat）を上げて競い合う。九州大学や JAXA 種子島宇宙センターなどの共催で 05 年から毎年開催されている。

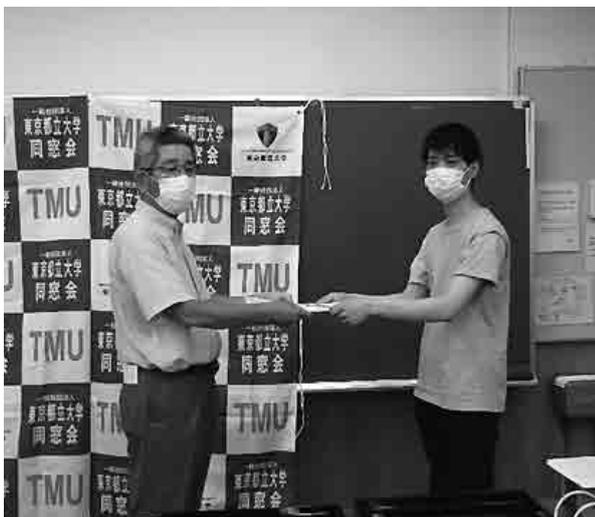
5. 受賞団体 ラグビー部

代表者 坂元 優太 助成金 10万円
テーマ 実力を兼ね備えた“愛されるチーム”へ
受賞理由 部活動の範囲を超えた地域貢献に取り組んでいることを高く評価する。



6. 受賞者 椎名 野歩也 システムデザイン研究科 電子情報システム工学域 助成金 5万円

テーマ ホログラフィ初学者のための学習用サイトの構築
受賞理由 オリジナリティーがあり社会に与える影響が期待できる。大学で仲間を募って活動するなど広がりを期待する。



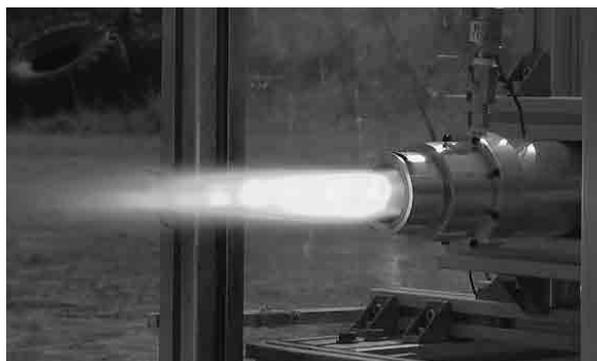
7. 受賞団体 いきもの！サークル東京

代表者 山谷 遼 助成金 10万円
テーマ 東京都立大いきもの園
受賞理由 取り組みが有意義である。長く続けている活動であるが、今回は切り口を変えて展開していることが評価された。



8. 受賞団体 CORE

代表者 久保田 啓介 助成金 10万円
テーマ バルブ+酸化剤旋回流エンジンを搭載したロケットの開発
受賞理由 夢があり面白い取り組みである。今後のイベント等で実績を出してくれると期待する。



9. 受賞団体 劇団時計

代表者 齋藤 はな 助成金 10万円
テーマ ミュージカル公演の実現
受賞理由 文科系サークルが共同して公演を行うという、横のつながりを強化していく取り組みが非常に高く評価された。



母校はいま

22年度 秋季卒業式・修了式を挙りました

22年9月27日に、南大沢キャンパス講堂小ホールで挙行し、学部生20名、大学院生47名の合計67名（うち留学生32名）が卒業・修了しました。留学生が多いことから、式典は英語で行われました。



式辞では大橋学長から“Your research activities have been affected by various restrictions due to the COVID-19 pandemic, nevertheless you have studied and conducted research remarkably well. You should be proud of your achievements.”などとエールが送られました。

2022年度 秋季入学式を挙りました

22年10月3日に、南大沢キャンパス講堂小ホールにて秋季入学式を挙行し、65名の大学院生（うち留学生50名）が入学しました。留学生が多いことから、式典は英語で行われました。



式辞では大橋学長から“A university is a place where you can try various new things, not limited to academics. Challenge yourself to do something new, such as sports, arts, volunteer activities, or international programs.”などとメッセージが送られました。

22年度 卒業式・修了式を挙りました

23年3月21日に東京国際フォーラムで挙行され、学部1603名、大学院743名、助産学専攻生10名、専門職の学位授与者9名、の合計2365名、ならびにプレミアム・カレッジ生89名を社会に送り出しました。

式典では、会場に参列した学生や保護者はもとより、ライブ配信で視聴した方々に、大橋学長の式辞、来賓の祝辞など心からのメッセージが届けられました。

大橋学長は式辞で3つのお願いをされました。



「まず一にぜひ大学時代の友を一生大切にしてください。そして大学で経験し学んだことであなたの血や肉となった知性を力にして、人々を幸せにするにはどうすればよいかを考えてほしいです。またいろいろなことに挑戦してください。小さな一歩を踏み出すことが挑戦です。若い人たちの一歩ずつが集まることで、地球と世界を変える大きな力につながると信じています」などと語りかけました。

23年度 入学式を挙りました

23年4月9日に東京国際フォーラムで挙行され、学部生1691名、大学院生870名、助産学専攻科生10名、プレミアム・カレッジ生94名、総数2665名を迎えました。



大橋学長は式辞で「大学は目的地ではなく出発点です。自分には何ができるのか、何をを目指すべきかを探りあてられることを、心から期待しています」などとエールを贈りました。

「ベスト・ティーチング・アワード」の表彰式

本賞は教育の質の改善に貢献が認められる優れた取組に対して「ベスト・ティーチング・アワード」を授与し、実施した教員を表彰する制度です。

第3回（2021年度）には次の2件が選出され、22年10月20日の表彰式で、大橋学長から取組みの代表者に対して賞状と盾が授与されました。



受賞取組：地域企業・団体と連携した課題解決型学習PBL（Project Based Learning）の実施

代表者：岡村 祐 准教授（都市環境学部観光科学科）
共同実施者：川原 晋 教授／大平悠季 助教／清水哲夫 教授

－取組みの内容－

PBLは学生が自ら問題を発見し、解決する能力を養うことを目的とした学習方法。学生は地域企業や自治体が抱える課題を解決するため、フィールドワークを行い、計画を立案し、それに対して自治体や企業からコメントをもらうことで、社会的ニーズを考えさせ、地域の資源や人、事業者等多方面への関心を喚起した。また報告書を作成、学内向けセミナー発表、学会やコンテストへの参加等、学内外への活動も行った。

受賞取組：システム設計に関する学習機会の提供の試み～ダブルループ学習の考え方に基づく基盤科目での課題発展

代表者：金崎雅博 教授（システムデザイン学部航空宇宙システム工学科）

共同実施者：佐原宏典 教授／古本政博 助教

－取組みの内容－

基盤科目「エアフレーム*1デザイン概論」において、より発展的な課題を望む学生がいたことと、要素技術全体を俯瞰して大規模システムを具現化するシステムインテグ

レーター*2のための教育プログラムが必要であることを踏まえ、当該科目の履修学生の中から希望者を募り、大気のある惑星・衛星圏での航空探査をテーマにミッションステートメント*3や要求分析を経てシステム要求*4を文書化する実習、さらに教育用小型ドローンによるロボットプログラミング演習、グループワークとしてのブレインストーミングとオリジナル機の製作など、より高度な教育プログラムの場を提供した。このプログラムにより、システムインテグレーターとして必要な能力を身につけさせることができた。加えて受講後の学生がさらなる学習のために自主的にサークルを設立するなど、学生の学修意欲を引き出し、主体的学習を後押しした。

* 1：Airframe：機体：航空機などの物理的構造

* 2：Systems Integrator：個別のサブシステムを大規模システムにまとめ上げる個人や企業

* 3：mission statement：探査の内容やその目的の設定

* 4：ミッションステートメント実現のために必要なシステム

久しぶりに対面でひな祭りを開催

ひな祭りは、母校の留学生に日本文化を知ってもらおうと、都立大国際センター・同窓会共同主催で16年から始まったイベントです。今年は3年ぶりに対面での開催ができました。23年3月3日、会場の南大沢キャンパス国際交流会館ホールには約50～60名が参加し、このうち留学生は家族を含めて15名ほどでした。

今年は留学生の皆さんに体験してもらうことに力を入れた催しで、積極的に挑戦する留学生が多く、皆さん大いに楽しんでおられたようです。

お雛飾りは2月27日から交流会館のエントランスとホールの喫茶コーナーの脇に飾られました。いずれも数年前に地域の皆さんからいただいたもので、地域の方を中心にたくさんの方がご覧になっていました。

また学生から、HANDs（国際交流のためのサークル）、琴の三曲会、茶道研究会、管弦楽団の皆さんにたいへん協力していただきました。

オープニングセレモニーはHANDs代表のポジェナ



茶席でお茶を楽しむ皆さん

さんが英語と日本語で司会。続いて三曲会による箏の演奏がありました。セレモニーの後は参加者に箏、お茶、唄の体験をしてもらいました。ホールの奥に茶席もしつらえられ、亭主の見事なお点前ぶりを披露。最後は全員が管弦楽団の伴奏で、童謡「たのしいひなまつり」の斉唱にも挑戦しました。

南大沢キャンパスで傷害事件が発生しました

22年11月29日に人文社会学部の宮台真司教授が、面識のない男に突然襲われて後頭部を殴打され、首筋など数か所刺されて重傷を負い病院に搬送されました。幸い命に別状はなく、12月7日には退院できました。程なく容疑者は特定されましたが、その後、死亡（自殺とみられる）していたことが判明したため、事件の動機など全容の解明はむずかしくなっています。

ウクライナ国立航空大学 NAU*と連携協定を締結

23年4月26日に両大学の連携・協力に関する協定締結のため、オンラインで調印式を実施しました。

NAUの日本研究分野における専門家の育成支援等の協力、学生の受入れ・教育プログラムの提供、共同研究、シンポジウムなど具体的な連携内容については、今後検討を進めていく予定です。

母校はこうした取組みを通じ、学生の受入れや大学同士のパートナーシップの構築など、ウクライナへの

*首都キーウに所在。航空宇宙のほか、経済経営、国際関係など10学部を設置している。ちなみに日本語でホームページを見ることができる。

日野新棟（6号館）新築工事が竣工しました

2021年4月に建設工事が始まった新棟の建屋が、ついに23年3月に竣工しました。残工事も終わる7月から人とモノの移転も始まります。

これまで日野と南大沢の2つのキャンパスに分かれていたシステムデザイン学部の5学科が、新棟完成により、すべて日野に統合することになります。新棟は南大沢から移る2学科のためのスペースに加え、講義スペースや産学公連携スペース等も充実しています。

新棟は一部に吹抜けを設けた4階建て、延べ9400㎡になります。4階の研究室・実験室は、教員の異動等に際しても柔軟に対応できるよう、汎用的な仕様です。また1階の産学公連携スペース TMU Innovation Hub には、オープンイノベーション施設、インキュベーション施設、研究機器共用センター施設等が整備されます。今後、これらを活用した企業との共同研究

支援・協力の拡大を図るとともに、大学のグローバル化を一層推進し、広い視野と豊かな国際感覚を持つ人材の育成につなげていきます。

東京都立大学 OBOG ネットワークへの登録のお願い

東京都立大学キャリア支援課では、卒業・修了生の皆様に在学生へのキャリア支援にご協力いただくことを目的に「OBOG ネットワーク」を組織しています。ご登録いただいた皆様方には、OBOG 訪問のご対応と OBOG 交流会へのご参加をお願いしています。

すでに多数の卒業・修了生の皆様にご登録いただいておりますが、学生からは、「先輩方の経験談を聞くことができ就活への考えが深まった。」「親身になって話していただき多くの学びがあった。」などの声が寄せられています。学生にとって、OBOG 訪問は業界の状況や具体的な就職活動方法を知ることができ、OBOG 交流会では様々な業界の先輩方と交流し視野を広げることができる重要な機会となっています。

ぜひ同ネットワークへのご登録をお願いいたします。詳しくは東京都立大学キャリア支援課ホームページ上部の「卒業生の方へ」をご覧ください。

https://career.tmu.ac.jp/for_alumni/obog.html



や大規模プロジェクトの実施等が期待されます。

新棟建設に先立って全学の機器類を共用できるようにするため、その予約システムも整備され、さらにローカル 5G の応用研究を目的としたネットワーク整備や電波暗室も整備されました。



新棟（6号館）正面（南東側）

2023年度 一般選抜試験出願状況及び合格者状況（前期・後期合計）

学部	人文社会学部				理学部				都市環境学部				システムデザイン学部				健康福祉学部				全学部合計			
	人間社会学科	人文社会学科	法学部	経済経営学部	数理科学科	物理学科	化学科	生命科学科	地理環境学科	都市基盤環境学科	建築学科	環境応用化学科	観光学科	都市政策学科	情報科学科	電子情報システム工学科	機械システム工学科	航空宇宙システム工学科	インストラクト学科	看護学		理学療法学科	作業療法学科	放射線学科
募集人員	75	53	165	140	35	36	38	30	22	34	35	34	25	35	32	66	59	34	38	39	24	18	27	1094
出願者	348	236	1193	727	220	216	249	117	97	204	398	191	181	230	350	320	390	237	243	168	103	62	183	6663
合格者	93	79	348	171	42	43	45	38	25	47	41	46	33	40	38	76	83	44	42	51	24	25	31	1505
合格倍率	3.7	3.0	3.4	4.3	5.2	5.0	5.5	3.1	3.9	4.3	9.7	4.2	5.5	5.8	9.2	4.2	4.7	5.4	5.8	3.3	4.3	2.5	5.9	4.4

2023年3月31日付で退職された教授・准教授

氏名	職位	学部	学系等	コース	氏名	職位	学部	学系等	コース
玉野 和志	教授	人文社会	人間社会学科	社会学教室	松本 淳	教授	都市環境	地理環境学科	
山際勇一郎	教授	人文社会	人間社会学科	心理学教室	橘高 義典	教授	都市環境	建築学科	
岡本 賢吾	教授	人文社会	人文学科	哲学教室	金村 聖志	教授	都市環境	環境応用化学科	
三宅 昭良	教授	人文社会	人文学科	表象文化論教室	武井 孝	准教授	都市環境	環境応用化学科	
角井 誠	准教授	人文社会	人文学科	表象文化論教室	貴家 仁志	教授	システムデザイン	情報科学科	
加藤 紫帆	准教授	法	法学科	法律学コース	小町 守	教授	システムデザイン	情報科学科	
浅野 敬志	教授	経済経営	経済経営学科		開沼 泰隆	教授	システムデザイン	電子情報システム工学科	
足立 高德	教授	経済経営	経済経営学科		渡部 泰明	教授	システムデザイン	電子情報システム工学科	
桑田耕太郎	教授	経済経営	経済経営学科		石川 陽子	准教授	健康福祉	看護学	
竹田 陽子	教授	経済経営	経済経営学科		網本 和	教授	健康福祉	理学療法学科	
高桑昇一郎	教授	理	数理科学科		山田 拓実	教授	健康福祉	理学療法学科	
門脇 広明	准教授	理	物理学科		大嶋 伸雄	教授	健康福祉	作業療法学科	
波田 雅彦	教授	理	化学科		渡部 みさ	教授	大学教育センター		
林 文男	教授	理	生命科学科						
黒川 信	准教授	理	生命科学科						

2022年4月1日付
東京都立大学名誉教授称号授与者

氏名	所属
中尾 啓子	人文社会学部・人間社会学科
西郡 仁朗	人文社会学部・人間社会学科
服部久美子	理学部・数理科学科
菊地 耕一	理学部・化学科
渡邊真紀子	都市環境学部・地理環境学科
玉川 英則	都市環境学部・都市政策科学科
山口 亨	システムデザイン学部・情報科学科
山本 久志	システムデザイン学部・電子情報システム工学科
諸貫 信行	システムデザイン学部・機械システム工学科
小倉 泉	健康福祉学部・放射線学科

褒章受章おめでとうございます。

お二人*1が瑞宝中綬章*2を受章されました。

令和4年秋 鈴木 隆雄さん 東京都立大学名誉教授

令和4年春 古川 勇二さん 東京都立大学名誉教授

*1 同窓会が把握できた方的人数

*2 瑞宝中綬章：公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方に授章されます。

2022年度 司法試験の合格者数／合格率

法科大学院修了者（大学院別 20位まで）（ ）：既修／未修

1. 京 都	119人 (112人／7人)	68%
2. 東 京	117人 (90人／27人)	61%
3. 早 稲 田	104人 (80人／24人)	45%
3. 慶應義塾	104人 (89人／15人)	57%
5. 一 橋	66人 (57人／9人)	60%
6. 神 戸	54人 (50人／4人)	49%
7. 大 阪	51人 (42人／9人)	46%
8. 中 央	50人 (41人／9人)	26%
9. 東 北	27人 (25人／2人)	56%
10. 同 志 社	25人 (20人／5人)	31%
11. 日 本	24人 (21人／3人)	32%
12. 九 州	22人 (13人／9人)	33%
13. 立 命 館	19人 (14人／5人)	25%
14. 筑 波	18人 (6人／12人)	33%
15. 東京都立	17人 (16人／1人)	24%
16. 明 治	16人 (12人／4人)	19%
17. 北 海 道	15人 (9人／6人)	28%
17. 関 西	15人 (13人／2人)	28%
17. 大阪市立	15人 (11人／4人)	37%
20. 名 古 屋	14人 (11人／3人)	27%

予備試験*合格者 395人 97.5%

* 法科大学院未修了でも司法試験の受験資格があることを認定する試験

2021年度 卒業・修了後主な就職先について（複数名以上の就職先）

（1）一般企業等 ※法人格省略

建設業	大和ハウス工業/NTTファシリティーズ/奥村組/大林組/清水建設	
製 造 業	食料品・飲料など	山崎製パン
	印刷・同関連業	凸版印刷
	化学工業 石油・石炭製品製造業	ENEOS/三菱ガス化学/信越化学工業/日東電工/ライオン/横浜ゴム/大陽日酸/東洋インキSC ホールディングス/東ソー/三井化学
	鉄鋼業、 非鉄金属・金属製品製造業	古河電気工業/JX金属
	はん用・生産用・業務用機械 器具製造業	荏原製作所/住友重機械工業/キヤノンメディカルシステムズ/小松製作所（コマツ）/東京エレクトロニクス/ディスク
	電子部品・デバイス・電子回 路製造業	京セラ/ローム/ミネベアミツミ/宮川製作所/ルネサスエレクトロニクス/アルプスアルパイン/スタンレー電気/アズビル
	電気・情報通信機械器具製 造業	日立製作所/日本電気/富士電機/キーエンス/キヤノン/富士通/ソニーグループ/三菱プレジジョン/ 三菱電機/新電元工業/セイコーエプソン/パナソニック/日本アイ・ビー・エム/日本NCR/東芝/ニコン
	輸送用機械器具製造業	デンソー/トヨタ自動車/日産自動車/いすゞ自動車/日立Astemo/SUBARU/川崎重工業/本田 技研工業/ポッシュ
その他製造業	オカムラ（旧：岡村製作所）/能美防災	
電気・ガス・熱供給・水道業	東京電力ホールディングス/電源開発	
情報通信業	富士ソフト/Sky/ヤフー/楽天グループ/NTTデータ/アウトソーシングテクノロジー/野村総合研究/ NTTドコモ/日本タタ・コンサルタンシー・サービス/NTTデータ・アイ/ソフトバンク/アクセントチャ/日鉄ソ リューションズ/アイネット/ドコモCS/キヤノンITソリューションズ/KDDI/大和総研/東日本電信電話/ TIS/ネットワンシステムズ/ルクレ/NTTデータシステム技術/スカパーJSAT/スミセイ情報システム/マネ フォワード/DXCテクノロジー・ジャパン/いえらぶGROUP/NTTデータ・フォース/セラク/船井総合研究所 /イーエムネットジャパン/ディップ/日本総合研究所/モンスターラボ/電通国際情報サービス/パワーソ リューションズ/富士通Japan/農中情報システム/アシスト/横河ソリューションサービス	
運輸業・郵便業	東急/東日本旅客鉄道/首都高速道路/中日本高速道路/東海旅客鉄道/日本通運/日本郵便/ 京王電鉄	
卸売・小売業	大塚商会/クワイエットエス・ディー/内田洋行/サンゲツ/ファーストリテイリング（ユニクロ・GU）	
金融・保険業	日本政策金融公庫/三井住友銀行/三井住友海上火災保険/農林中央金庫/静岡銀行/アニコム損 害保険/日本生命保険/リコーリース/大和証券/アクサ生命保険/三井住友信託銀行/千葉銀行/り そなグループ	
不動産業・物品賃貸業	三井不動産商業マネジメント/小田急不動産	
学術研究 専門・技術サービス業	建設技術研究所/大日本コンサルタント/鉄道建設・運輸施設整備支援機構/パスコ/JR東日本コンサ ルタント/三菱UFJリサーチ&コンサルティング/八千代エンジニアリング/監査法人トーマツ/日本工営/公 益財団法人東京都都市づくり公社/日揮ホールディングス/国立研究開発法人産業技術総合研究所/ SOLIZE/国立研究開発法人日本原子力研究開発機構/日建設計/電通デジタル/パンフィックコンサル タント/あずさ監査法人/宇宙技術開発/インテージ	
教育・学習支援業	東京都立大学法人/国立大学法人東京大学/ステップ 【教員】（1名以上から記載） 東京都/神奈川県/埼玉県/長野県/千葉工業大学/佛教大学/University of the Philippines Los Banos/土浦日本大学中等教育学校/女子学院中学校・高等学校/星美学園中学校・高等学校	
医療・福祉 （看護師・医療技術職を除く）	ベネッセスタイルケア/東京都健康長寿医療センター	
その他サービス業	メイテック/VSN/クイック/マイナビ/メンバーズ/タカラッシュ/ワールドインテック/パーソルプロセス&テクノ ロジー	

（2）公務員実績

東京都特別区	25	厚生労働省	5	そのほか国家公務	45
横浜市役所	13	東京国税局	4	そのほか地方公務	73
東京都庁	12	法務省	4		
川崎市役所	6	防衛省	4		
		合計		191名	

（3）病院等実績

東京都立病院	18
東京大学医学部附属病院	10
慶應義塾大学病院	5
東京都保健医療公社	5
上記以外の病院・施設等	149
合計	187名

22年4月1日～23年3月31日で事務局にご連絡のあった方々を謹んでご報告いたします。

※1 ご遺族から会報への掲載は望まないとのことがあった方については掲載しておりません。
 ※2 お名前(敬称略)／大学名(なし:旧都立大、院:大学院、医:旧医療技術短大・保健科学大、首:首都大学東京)／卒年(西暦下2桁)、学科・コース／逝去年月日

佐野 博敏 元 総長 22.06.30	諸岡 俊光 59 経済 23.02.05	小城 吉國 69 院化学 19.10.19
杉浦 銀策 名誉教授 21.06.—	杉山 元 60 法学 22.03.09	丸 恵三 70 経済 —.—.—
小板橋 稔 53 社会 22.11.—	田村 三郎 60 建築 22.02.04	三田 美代 70 数学 21.01.12
山本 英典 55 法学 21.08.08	木村 泰延 61 化学 22.04.05	長谷部保彦 70 化学 21.11.18
丸山 泰都 55 史学 23.02.14	星野 勝美 61 化学 21.12.07	宮崎 実 71 建築 22.03.12
板谷 博司 55 工化 19.12.07	小川 周夫 62 物理 22.09.20	齋藤 英夫 72 法律 21.10.20
曾我部文子 56 化学 23.01.13	杉山 治男 63 物理 22.06.20	藤巻 星稀 73 経済 22.05.29
山田 敬二 56 化学 22.03.30	青木 矩行 63 化学 22.05.02	小山 淑子 79 数学 22.04.17
鈴木 富雄 56 機械 22.03.—	早崎 淳 63 化学 22.03.19	鎌田 裕二 91 工化 22.12.03
廣岡 昇 56 化学 22.07.05	比嘉 悠紀 63 建築 21.07.15	手塚 修 94 建築 21.—.—
衣笠 泰生 58 数学 18.10.09	惣川まりな 64 生物 14.03.13	小高 方展 95 経済 22.10.11
岩 吉男 58 機械 21.12.27	徳留 淳朔 65 土木 21.08.25	中村 博章 96 院心理 21.12.08
太田 茂 58 機械 22.03.25	金子 郁夫 65 院電気 22.07.24	一場 恭子 97 医看護 —.—.—
福島 忠正 58 工化 22.04.30	三橋 文夫 66 法学 21.05.26	三島 久典 00 物理 20.10.05
平松 昌子 59 社会 21.11.30	神山 昌美 67 政治 23.02.08	山本 崇裕 12 首材化 19.—.—
中津川 悟 59 経済 21.01.29	新居 泰之 67 建築 21.09.16	野木 春奈 16 首欧米 21.10.26
藤野 弘勝 59 経済 20.06.06	武田 清 68 法律 98.03.	木下 皓史 20 首化学 22.05.22
立川 家齊 59 化学 21.09.19	黒瀬欽次郎 68 化学 22.02.15	
生方 康之 59 電気 21.05.31	鈴木 洋子 69 化学 21.10.19	

八雲クラブで会いましょう

丑山佐千男 都立大 74年卒 政治

「八雲クラブ」は世界に名高い渋谷のスクランブル交差点を渡って徒歩数分、東急ハンズの隣、渋谷ニューコーポラス10階にあり、現在約250名のクラブ会員が利用しています。会員になれば、予約すると二つある部屋を自由スペースとして使うことができます。

また会員には定期的にニュースレターが送られ、さまざまなイベント案内や八雲サロンの予告などが知らされます。「八雲サロン」は35年以上続いており、23年4月で420回を数えます。

コロナ禍の影響で、リモートの隔月開催になっていましたが、3月よりマスク着用は任意で、軽食と飲み物付きのリアルサロンとして復活しました(リモートでの参加も引き続き可能)。部屋の利用制限も緩和したので、ほぼコロナ禍以前の状況にもどっています。会員でない方のリアル、リモート参加も歓迎です。

八雲クラブは、会員同士が顔見知りになり親睦を深め情報交換などの寛ぎのひと時を過ごせる場です。現役学生から矍鑠とした高齢の先輩までが集まる毎年恒例の新年会はじめ、四季折々さまざまなイベントが予定されています。

八雲クラブの詳しい紹介と入会方法、八雲サロン予告などは同窓会ホームページをご覧ください。同窓生のみなさん、八雲クラブでお会いしましょう!

<https://tmu-alumni.jp/yakumo-club/salon>

この一年(～23年4月)の八雲サロンのテーマ

- No.414 「虹の設計、ある開発コンサルタントの記録」
折下 定夫(都大72年卒 土木)
- No.415 家族型ロボット「LOVOT(らぼっと)」の開発
および今後の展望 林 要(科技大院98年卒)
- No.416 旅の楽しみは3+1～『旅のことばを読む』
刊行にあたって 小柳 淳(都大81年卒 法律) /
小山 伸二(都大81年卒 法律)
- No.417 〈揺れ動く国際情勢を知る その1〉次なるパン
デミックをいかに防ぐか? 新型コロナ、ウクライナ危
機下での保健協力の変容と課題
託摩 佳代(都大法学部教授)
- No.418 〈揺れ動く国際情勢を知る その2〉世界の「今」
と「未来」がわかる! シン・国際関係論
天野 修司(府立大03年卒 経済)
- No.419 気象キャスターよもやま話～近年の気象災害と
情報活用(岩谷 忠幸氏 都立大92年卒 地理)
- No.420 「更なる変貌、渋谷の街づくり(パート2)～
100年に一度の大規模再開発～」
飯星 明(00年都立大卒 建築)

『同窓会奨学金制度』に関するお礼とご報告

同窓会奨学金制度は、19年4月から21年3月までの期限付きで実施された『大学名称変更記念募金』にご応募くださった同窓生からの募金1568万円を原資に、20年4月から給付型奨学金として支給を開始しました。

在校生で、経済的支援を必要とし、かつ成績優秀者を対象に、各学部1名、計7学部7名に対して月額3万円を1年間支給するもので、年間支給総額は252万円になります。

3年目の22年度は以下の7名の在校生に支給されました。以下に受給した学生からのお礼のメッセージを掲載させていただきます。

同窓会は、在校生支援に注力しており、とりわけ奨学金制度を中核的な事業の一つに位置づけています。

今後も、奨学金制度についての基本方針や運営方法、募金活動計画、資金計画などを理事会で十分に検討し、同窓生の皆さまにご報告いたします。

受給した学生からのお礼の言葉

*学年は22年4月時点

石原 美斗 健康福祉学部 放射線学科 4年

この度は、奨学金によるご支援を賜り厚くお礼申し上げます。22年度は臨床実習や学会発表の準備で忙しく、アルバイトを行える時間が限られていたため、奨学金には非常に助けられました。おかげさまで無事卒業することができました。卒業後は大学院へ進学し、研究に精進していく所存です。

水本遼太郎 システムデザイン学部 電子情報システム工学科 4年

この度は、同窓会奨学金のご支援、誠にありがとうございました。私は学費免除を受けていたのですが、家計の逼迫は変わらず続いていました。ですが、同窓会奨学金を受給したことで、通学費用に充てることができ、研究活動により専念することができました。

奨学金によって救われるのは学生のみではなく、都立大の研究活動全体だと思います。この素晴らしい支援活動が末永く続くことと共に、同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

千綿 わか 法学部 法学科 3年

このたびは同窓会奨学金のご支援を賜りまして、誠にありがとうございました。

みなさまより支援をいただきましたおかげで、経済的な心配に追われることなく、充実した大学のリソースを十二分に利用して、思う存分、今しかできない学問に打ち込むことができました。

みなさまに支えられた今年の学びを活かし、もう一年の大学生活と今後の人生を有意義なものにしたいと思えます。

木村沙弥香 人文社会学部 人文学科 4年

この度は同窓会奨学金のご支援、誠にありがとうございました。

今年度は大学院試験と卒業論文執筆があり、思うようにアルバイトができませんでした。経済的に苦しい中、同窓会奨学金のおかげで勉学に集中することができました。その結果、第一志望校に合格できました。

同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

栗嶋 佑太 経済経営学部 経済経営学科 3年

軟式野球日本代表になるという夢を追求するために、同窓会奨学金の奨学生を希望しました。奨学生として先輩方のご支援に対して、自覚と責任を持って1年間野球・勉学に励んできました。

本年度は力及ばず代表選手に選出されませんでした。来年度には良い結果をご報告できるようさらに精進します。

高橋 拓也 都市環境学部 地理環境学科 4年

この度は奨学金によるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。おかげさまで学業に専念することができ、無事卒業を迎えることができました。

卒業後は大学院へ進学し、環境化学の研究を通して、この恩恵に報いるよう努めてまいります。

佐藤 琴美 理学部 生命科学科 2年

この度は、同窓会奨学金によるご支援を誠にありがとうございました。

ここ1年で、母の闘病、妹の進学など経済環境に変化がありましたが、経済的なご支援により心身に余裕ができました。同窓会の皆様への感謝を忘れず、今後も引き続き勉学に励み、大学院進学を目指します。

寄付金受領のお礼と報告・お願い

いつも多くの会員の皆様から寄付へのご賛同をいただきありがとうございます。

同窓会の財政は、新入生からの入会金、会員からの維持会費（年会費または終身年会費）及び寄付金の3本で成り立っています。さらに寄付は以下の3本建てになっています。

1. 10年維持寄付：終身会員で納入後10年以上経過された方に3年に1回5000円の寄付をお願いするもの。
2. 維持寄付：上記以外の一般的な維持寄付。
3. 目的寄付：指定された目的に充てる寄付。

2022年度（22年8月1日～23年7月31日）も402名の方々から約288万円のご寄付をいただきました。とくに13年にスタートした『新しい寄付制度による（10年維持寄付）』につきましては、終身会費納入後10年以上経過された方々のうち2796名の皆さまから、制度創設以来2800万円を超えるご寄付をいただいできております。

しかし入会金については、新入生の入会率が60%程度で、直ちに大幅な向上は困難な状況です。年会費収入も毎年650万円程度ときわめて残念な数字です。

なお同窓会会計年度第2期（21年8月1日～22年7月31日）の金額実績については45ページの「正味財産増減計算書」をご覧ください。

このような状況下、寄付金は財政への大きな支えとなっており、改めて御礼申し上げます。

その一方、支出は、さまざまな節減の努力はしておりますが、年額3000万円～3200万円程度は恒常的に必要で、同窓会の財政はずっと苦しい状況が続いています。しかしながら同窓会としては、今後も現役学生に対する支援を中心として、積極的に活動を展開していきたいと考えておりますので、引き続きのご支援、ご協力をお願いいたします。

22年4月1日から23年3月31日までに寄付していただいた方は以下の名簿のとおりです。

*お名前（敬称略）／卒年（西暦下2桁）／大学名 ナシ：新旧都立大 首：首都大学東京 科：旧科学技術大 医：旧医療技術短大及び旧保健科学大／院：大学院／学科・コース・専攻

維持寄付

津田 明 53 物理
西田 滋 53 工化
廣瀬 太郎 54 経済
渡邊 英二 54 経済
佐々治一郎 54 化学
神足 勝丈 56 機械
清水 力雄 57 化学
菊池 章 57 機械
神山 洋 57 土木
土屋 善彦 59 経済
平島 弘二 60 法学
遠藤 慶三 60 物理
石井 暢夫 60 機械
板倉 治成 60 機械
林 恭輔 60 機械
花村 厚臣 61 法学
所 弘之 61 経済
平野 正男 61 院生物
井出 明賢 62 機械
指宿 雅之 62 機械
浅野 繁夫 63 経済
杉山 治男 63 物理
横山 玲子 63 生物
友松 知宏 64 電気
新島 溪子 65 生物
田代 元生 66 経済
岡本 正己 66 物理
大澤 昭夫 66 生物

恒吉 忠雄 66 機械
木村 秀雄 66 建築
大崎 忍 68 経済
大田 正彬 68 経済
神永 剛 68 化学
横川 昭夫 68 機械
深瀬 嘉一 68 電気
石橋 憲 69 物理
柿沼 秀雄 70 教育
高橋 一夫 70 数学
松山 善男 70 数学
大谷 猛夫 70 地理
関谷 守昭 72 哲学
靱島 勝 72 経済
今関 孝夫 72 機械
松原 清 72 工化
吉田 隆一 73 経済
奥田 修一 73 建築
岡本 和夫 74 経済
上原 信五 74 物理
阿久津昌之 75 化学
阿久根孝男 75 院物理
西 多喜子 76 法律
堀田 誠 76 法律
伊藤 隆介 76 物理
八木 隆 77 機械
加藤 裕 78 法律
青木 克行 78 経済
石澤 清明 78 経済
加藤 久 78 経済

飯久保雅夫 78 機械
原田 茂 78 機械
山本 正紀 78 建築
佐野 良人 79 経済
野村 敦子 79 建築
久保 勉 79 院数学
杉原 啓子 81 英文
田中紳一郎 81 経済
渡邊 弥 81 経済
樋口 和彦 81 土木
高崎 忠道 82 物理
大森 保 84 法律
尾上 志保 86 法律
小澤 育夫 88 経済
大井川百合 89 医看護
松村いずみ 90 法律
高橋 浩也 90 物理
浦 誠 90 科管理
半田 勝也 91 法律
岡部 隆行 91 科機械
斉藤 智代 91 医助産
及川 育矢 92 建築
武田 重之 92 科航空
原田 法子 96 法律
中村 耕太 96 工化
伊藤 光 99 法律
辻 悠子 01 電情
野口 賢一 06 政治
松本 聡子 06 建築
白杵 良 19 前職建築

10年維持寄付

津田 明 53 物理
浅野 敏武 53 機械
河村 襄 53 工化
西田 滋 53 工化
高野 満 54 物理
佐々治一郎 54 化学
山本 洋子 55 経済
宮地壽々子 55 仏文
小澤 保治 55 機械
齋藤真之助 56 土木
雨宮 敏明 57 経済
野口 馨 57 人文
植村 峻 58 法学
田中 毅 58 法学
鈴木 義郎 58 経済
石渡 名澄 58 化学
松本 幸司 58 機械
山口喜市郎 58 土木
澤井 泰 59 法学
清水 敬信 59 経済
笹沼 府 59 化学
武居 文彦 59 化学
檜崎 學 59 電気
長谷川益男 59 工化
池田 昭 60 経済
岡崎 栄夫 60 経済
篠田 友孝 60 化学

石井 暢夫 60 機械
吉田 英行 60 機械
大和 貞治 60 電気
中尾 義一 60 工化
鎌田 達雄 61 化学
林 秀剛 61 生物
梅沢 仁治 61 土木
永島 義弘 62 経済
伏谷 哲夫 62 経済
跡部 輝彦 62 工化
篠木 昭夫 63 法学
瀬尾 貞善 63 法学
大森 恵司 63 経済
増渕 久一 63 経済
瀧井 進 63 化学
梅田 一好 63 機械
横手 久典 63 機械
大関 誠 63 電気
諏訪 秀策 63 電気
田中 慶次 63 電気
森 佐美雄 63 電気
中村 宣男 63 建築
木村 清一 64 法学
佐久間義一 64 法学
伊藤 利久 64 経済
木曾 弘隆 64 機械
中岡 久士 64 電気
星銅 孝生 64 建築
斎木 邦弘 65 法学
松山 恒昭 65 法学

小野寺 律	65	経済	工藤 純	72	化学	三浦 和也	79	社会	五井 尚人	86	建築	黒田 修	98	数学
喜多村允彦	65	経済	今関 孝夫	72	機械	伊藤 幸彦	79	法律	佐藤 秀樹	86	工化	上原 逸誉	98	化学
松岡 俊雄	65	物理	吉田 昇	72	電気	内海 温	79	法律	稲垣 誠司	87	法律	加藤 晶子	98	院地理
玉城 成夫	65	化学	鈴木 隆雄	72	土木	福田恵美子	79	法律	秋濱 洋一	87	経済	飯田 裕	99	生物
小野田 博	65	機械	高田 利行	72	土木	島田 公男	79	数学	高橋 賢一	88	教育	小島 久子	99	医作業
岩澤 修	65	電気	猿谷 彰	72	院土木	大島 健志	79	土木	田中あゆみ	88	生物	関 純男	00	経済
石井 孝男	65	土木	藤田 満幸	73	法律	神戸 英雄	80	国文	猪瀬 康夫	88	地理	鈴木 忠義	00	院社福
子安 哲雄	65	土木	滝島 三男	73	経済	斉藤 智之	80	法律	保田 郁夫	88	機械	天日 洋二	00	科航空
時吉 寛	65	土木	笹川耕太郎	73	地理	碓井 康雄	80	経済	三堀 厚	88	機械	中村 礼美	01	教育
小寺 正孝	65	建築	村山 清	73	院化学	大藤 和秀	80	経済	小島 弘行	88	土木	水谷 信	01	科生産
長塚 浩秀	66	物理	平野 謙二	73	院機械	鈴木 周一	80	地理	藤村 和正	88	土木	安藤 彰信	02	教育
渡辺 榮一	66	物理	森田 秀樹	74	法律	鈴木 達也	80	工化	高柳 洋子	89	英文	四津 雅英	02	院哲学
大部 一夫	66	化学	佐瀬 茂雄	74	化学	生田 清人	80	院地理	田中 彰	89	法律	井上 航	03	政治
森 紘一	66	機械	井上 一男	74	機械	深津 有方	81	国文	玉利 悦朗	89	経済	武藤 瑞枝	08	法律
田淵 良雄	66	電気	斎藤 泰一	74	電気	森田 泰三	81	政治	山井 愛樹	89	地理			匿名4名
中嶋 靖夫	66	土木	坂本 靖之	74	電気	田中紳一郎	81	経済	笹山 博	89	土木			
鶴田 光子	67	物理	若本 英次	74	建築	井坂 昇二	81	数学	土屋 博訓	89	建築			
小島 徹也	67	機械	平 幹雄	74	工化	森田 真一	81	物理	横田 千秋	89	院化学			
斉藤 勲	67	機械	河口 修	74	院電気	岡田 正義	81	土木	菊地 宣文	90	法律			
國府 勝郎	67	土木	内山美津子	75	法律	富田 広美	81	土木	永嶋 明夫	90	電気			
松園 典子	67	院人類	榎本 隆	75	経済	増田 直司	81	院数学	笠原 達也	90	院物理			
梅澤 孝子	68	心理	鈴木 厚	75	経済	中山めぐみ	82	中文	平山 英敏	91	中文			
中世古昭一	68	法律	真鍋 正彦	75	経済	西郷 雅夫	82	法律	小口 正史	91	政治			
樋口 勝美	68	法律	高橋 正義	75	機械	粟田 充	82	経済	阿久津一弘	91	経済			
佐藤 弘三	68	数学	佐藤 仁宣	75	建築	高埜 文枝	82	物理	岩田 正広	91	経済			
金子 和夫	68	化学	小島 彰	75	工化	巾崎 宜晃	82	化学	雨宮 弘	91	機械			
小林 茂之	68	機械	宮部 浩次	76	哲学	柏原 達之	82	電気	大山 秀己	91	医作業			
深瀬 嘉一	68	電気	一澤 成典	76	経済	太田 武彦	82	土木	山田 直子	91	医地域			
小川雄二郎	68	土木	星名 隆之	76	経済	有沢 誠	82	工化	石田八千代	92	法律			
川瀬祥一郎	68	土木	加藤 直	76	化学	橋本 公一	82	工化	石田 統久	92	経済			
原田 忠弘	68	建築	矢島 誠	76	生物	古川 昭夫	82	院数学	本田 昌洋	92	化学			
大垣 孝	68	院物理	川崎 操	76	地理	加藤 俊一	82	院機械	柳 美由紀	92	建築			
村井 勝美	69	法律	久保 宏志	76	工化	中川 勝之	82	院機械	野村 光紀	92	科電子			
村上 彰子	69	生物	矢沼 彰	77	経済	松島 周一	83	史学	武田 重之	92	科航空			
喜入 博	69	地理	岩崎 吉男	77	生物	池田 新	83	経済	竹内 美穂	92	医放射			
大槻 賢一	70	法律	筒井 弘之	77	土木	河井 正美	83	生物	山本 有香	93	法律			
鈴木 一吉	70	経済	山本 勝美	77	土木	志村 喬	83	地理	矢野 陽子	93	数学			
服部 兆隆	70	化学	玉木 柱	77	建築	川上 善道	83	機械	宮崎 洋子	93	電気			
菅森 茂	70	電気	山本 裕三	77	工化	諸橋 享	83	工化	吉川 邦浩	93	電気			
大橋 哲夫	70	土木	小沼千恵子	78	仏文	中村 裕子	84	独文	中村 貴司	94	経済			
山田 達郎	70	建築	加藤 裕	78	法律	江原 茂美	84	経済	久保田彩容子	94	医看護			
高間 賢治	71	経済	石澤 清明	78	経済	大河原啓守	84	数学	中井 仙丈	95	社会			
会田二三夫	71	化学	古村 靖之	78	経済	吉川 寿明	84	土木	浜野 陽子	95	教育			
小宮 重夫	71	化学	田中 浩	78	経済	藤原 秋江	84	工化	野一色恭子	95	政治			
橋本 悟	71	電気	辻 泰弘	78	経済	森 茂樹	84	院機械	中村聡太郎	95	電気			
井部 博	71	建築	長田 訓明	78	経済	富田 諭	85	史学	有蘭 淳也	95	土木			
武澤 秀明	71	建築	滝口 亨	78	数学	黒沢 義輝	85	法律	大瀬 俊之	95	材化			
岡本 寛昭	71	院土木	井上 勝則	78	地理	田中 徹	85	地理	茂手木隆世	96	経済			
壁谷 喜一	72	法律	荒川 和彦	78	機械	佐藤 祐一	85	電気	本田 晃一	96	土木			
沼澤 秀雄	72	法律	石岡 治道	78	工化	湯浅富久子	85	院物理	杉山多美子	97	法律			
梅垣 洋一	72	物理	江崎 敦雄	78	工化	阿部 守	86	経済	二井 勝史	97	電気			
上田 精一	72	化学	井出 光	78	院英文	深澤 豊	86	生物	山田 明生	97	土木			

目的寄付

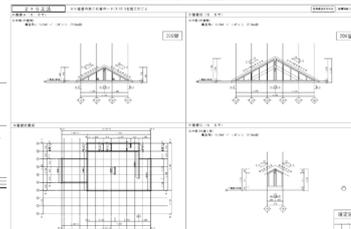
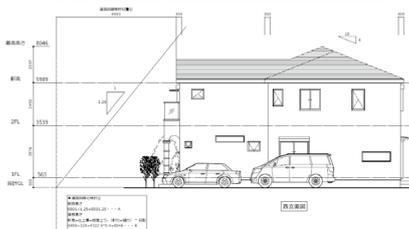
津田 明	53	物理
佐々治一郎	54	化学
神足 勝丈	56	機械
遠藤 慶三	60	物理
大川 時夫	60	物理
出口 亨	61	法学
平野 正男	61	院生物
小松 芳雄	63	経済
田代 元生	66	経済
茂田 和政	67	工化
鳴島 敦雄	68	政治
深瀬 嘉一	68	電気
堀 那華雄	69	化学
喜入 博	69	地理
中島 平三	70	英文
日比野 満	73	化学
奥田 修一	73	建築
村山 清	73	院化学
阿久津昌之	75	化学
萩原 信吾	76	仏文
堀田 誠	76	法律
山本 裕三	77	工化
田中 徹	85	地理
岩間 淳三	86	院独文
高橋 雅之	92	法律
原田 亮	96	政治
キュービツ美奈子	00	社会
野口 賢一	06	政治
石田 希望	18	首数理

記念募金

大戸 敏勝	74	法学
他に会報17号に 掲載済みの方1名		

建築図面業務、実施設計図、詳細設計図サポート致します

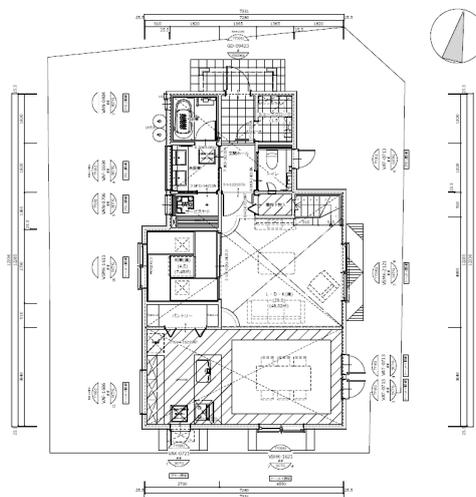
業務内容 戸建住宅の実実施設計図、
営業支援図面、
その他CAD図作成
図面例：
・プランゼンパース図、
・意匠図、構造図、
・パネル割り付け図、
・電気給排水図、測量図、
・外皮計算、壁量計算など。



会社特色 創業して19年間一貫してお客様の信頼を
第一に業務推進しております。
スタッフの大部分が海外にいるため、
お客様の信頼感が一層大事だと
考えています。
お客様のニーズに合わせて、
お客様の専用チームを
編成してサービスをご提供出来ます。

〈 建築CAD図面のご用命のある方、お気軽にご連絡くださいませ！〉

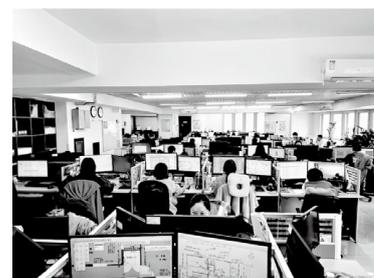
主なお客様 ・不動産関連会社様
・ハウスメーカー様
・ハウビルダー様
・建築設計事務所様



富山オフィス

大連オフィス

CADソフト ・JWCAD
・アーキトレンド
・デジド
・PS/5
・その他お客様指定ソフト



会社概要 (ご連絡お問い合わせ先)

商号：コード株式会社 一級建築士事務所
所在地：〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-1-4
メゾンサンシャイン1229号

Tel/fax: 03-5904-8535 / 03-5904-8536

創業：2003年

資本金：1,000万円

代表取締役：高部明敏 (都立大 93年卒 英文科)

社員数：日本30名、中国120名
(グループ)

Mail: winwin@takabecorp.com

URL: <https://www.coadltd.com/>



ワーキンググループ（WG）提言概要

2021年11月の第4回定例理事会において、今後重点的に取り組む課題として「発信と参画」及び「支える財政」が上げられ、検討WGの立ち上げが決定されました。「発信と参画」WGは、同窓会の発信力を高め、会員が参加したくなる企画を

「発信と参画」WG

提言のとりまとめにあたり、WGメンバー9名が22年2月から23年1月にかけて7回のオンラインミーティングを開催し、さまざまな意見交換と議論を行いました。

ミーティングの内容を整理し、今回の提言としてまとめました。なお「議論の過程ではなく、問題提起に力を入れる」こととし、問題提起とその対応として検討すべき案に焦点を絞っています。

各委員会などの同窓会組織に限らず、同窓生全体が将来の同窓会がどのようにあるべきかを考え、開かれた同窓会となるための方策について考えるきっかけとしていただければ幸いです。

広報

○発信力の強化

- ・ウェブサイトのSEO（検索エンジン最適化）に注力する
- ・ウェブサイトの掲載内容を整理し、抜本的に改修する
- ・同窓会のウェブサイト廃止し、大学ウェブサイト内の一部分に移管する
- ・学生メディアや卒業生メディア、大学ウェブサイトを活用する

○会報の必要性の検討

- ・ページ数を出来る限り減らし編集・印刷・発送コストを下げる
- ・会費を払っている会員のみ、あるいは冊子代を払った人のみ紙媒体で送ることも検討する
- ・将来的な方針として、会報は紙媒体ではなく電子媒体に完全移行を見据え、オンライン配信をデフォルトとして考えていく

○会報以外の広報媒体の開拓および注力

- ・会報・ウェブサイト・メールマガジン等で内容に関するアンケートを実施する
- ・会報以外の広報媒体を組織として運用する体制を確立する
- ・さまざまな広報媒体を調査し、同窓生のニーズに適した広報チャンネルを開拓する

各種イベント・企画

○イベント・企画の再検討

- ・対象世代ごとにイベント・企画を立案し、それぞれの世代のニーズをカバーする
- ・現状の年間イベントを見直し、費用・リソース等の観点から効果に見合うものかを再検討する
- ・イベント・企画ごとの目標（参加人数、波及効果など）を明確に設定する

提言すること、「支える財政」WGは、会費、寄附金、入会金などの増収策等を検討し提言することが求められました。両WGは検討会を重ね、取りまとめた提言を、22年9月の第9回と23年3月の第12回定例理事会で報告されました。

以下でそれぞれの提言の概要を紹介します。

他組織との連携

○広報力や団結力のある団体との連携推進

- ・有志団体のほか、準会員との繋がりを強化するため、体育会を含めた学生団体とも連携する
- 各種同窓会組織への支援の検討
 - ・各種同窓会組織をバックアップする本部としての位置づけを検討する
 - ・各種同窓会組織の名簿管理を同窓会本体が代行・集約し、一斉連絡を請け負う
- 大学との連携強化
 - ・TMUVision2030を理解し、ビジョンを大学と共有する
 - ・連携協定の具体化を大学側と協議する
 - ・包括連携協定の内容や、大学との連携の具体例を同窓会ウェブサイト上に明記する

八雲クラブ

○取り組みの可視化と利用促進

- ・八雲サロン等の活動について、適切なターゲットにリーチするよう広報の実施
- ・ニューズレターのあり方を再検討する
- ・八雲サロンの講演を映像化し、アーカイブとして公開する

情報通信管理

○業務におけるDXの推進と効率化

- ・理事・代議員の情報共有のためのクラウドサービス（ファイル共有、ビジネスチャット等）を導入する
- ・現状の名簿管理の運用を見直し、ニーズに合った名簿管理ができるシステムに更新する
- ・同窓生に限定した情報提供環境を整備する（同窓生用マイページの設置など）

理事会・理事

○活動への積極的な参画

- ・自らが取り組めることを整理し、活動に積極的に参画する
- ・理事の固定化を避ける
- ・ボランティア活動であることを理解し、個人に負担が集中することを避ける
- 新たな理事を積極的に迎え入れる雰囲気作り
 - ・接し方などに配慮し、新たな理事が活動に参画しやすくする
 - ・新しい提案をくじけさせない理事会の雰囲気を作る
 - ・互いに積極的にコミュニケーションをとる

街々書林

&
ギャラリー

2023年
初夏
開店!

旅する本屋 街々書林

旅先への興味と敬意をもって旅する、そんな本を集める人文系書店
旅行に出たくなったら本を探しにご来店ください

吉祥寺駅北口から中道通り徒歩7分

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町3-3-9（1階B）

店主 小柳淳 東京都立大学1981年卒 法学部



旅好き、乗り物好き、そして歴史好きの著者が紹介するエッセイ、『旅のことばを読む』（小柳淳著、書肆梓刊）

同窓会組織全体

○委員会間の連携強化

- ・委員長間での定期的な情報交換の場を設ける
- ・委員会制について再検討する
- ・委員会の枠を越えて互いに協力する体制・雰囲気を作る

○若手理事・代議員の声を反映できる環境作り

- ・構成委員の年齢制限を設けた若手活性化委員会を設置する

同窓生・在校生からの声を反映できる仕組み作り

- ・同窓会活動に関して定期的なアンケートを実施する
- ・理事と同窓生・在校生との懇談会を実施する
- ・イベント・企画等におけるボランティアを広く一般の同窓生から募集する

支える財政 WG

支える財政 WG は 11 名で構成され、6 回の検討会を経て提言を取りまとめました。検討にあたり、まず同窓会の財政の現状と課題について客観的データに基づいた共通認識を持つよう努め、そのうえで検討会で出された意見を評価・整理し、取りまとめました。

首都大学東京同窓会となってからの同窓会会計は、収支とも約 3000 万円の均衡を保ってきています。収入の内訳は入会金が約 60% と主体となっており、会費は約 20% でその他は寄付です。

財政状況の改善のためには、長期的には会費及び寄付金の増加を図る必要があります。同窓会の認知度・期待度を高めるように活動の活性化を図る地道な努力が大切ですが、WG としては、今回、財政に関係するものに絞り、12 項目の提言として取りまとめました。項目により緊急度、難易度に差があり、実現のためには相当の努力を要するため、大学とも連携を図り、同窓会として総合的な取組みが求められます。

会費制度の見直し

入会金が収入の 6 割を占め、会費が 20% (年会費 5%、終身会費 15%) 程度の収入構造を改善するため、会費制度 (年会費、終身会費の金額設定、徴収方法等) の見直しを行う。

新たなテーマの寄付金の企画

これまでも周年事業や記念事業などの寄付金には一定の金額が寄付されてきた実績があることから、新たなテーマの寄付金の企画を行う。募金にあたっては過去の寄付実績を踏まえて会員の賛同が得られ、寄付をしていただけるテーマと趣旨を設定する。

目的を明確にした寄付金の企画

学生支援や奨学金など継続的に資金が必要な事業については、寄付の目的を明確にしたうえで通年的に、かつ小額からでも寄付がしやすいスキームを工夫した寄付金の企画を行う。

水 沢 雪 夫 (著)

人生で出会った
三人の女

半自伝的私小説です。(Amazonにて検索・購入してください)

清 水 節 夫

都立大1966年卒 (14期) 工化・1968年卒院 (修士) 工化 (有機)

大学と共同での「学生支援基金」の創設

学生支援の充実を図るため、大学との連携の一環として大学と共同で「学生支援基金」(控除対象寄附金)の創設を検討する。

同窓会入会率の向上対策

入会金が収入の 6 割を占めている現状を踏まえ、現在 6 割程度の入会率の向上を図る対策を講じる。入会メリットをアピールした配布物の工夫、入学時の入会勧誘活動の強化、大学と連携した強化策など。

在校対策

将来会員となる在校生に対し、同窓会の学生支援活動、就活支援などを通じて同窓会を認知してもらい入会金未払者に対しては払込促進を図るとともに、卒業時に円滑に会員への移行を図れるようにする。

同窓会のメリットの整理とアピール

同窓会費支払い者のメリットを整理して会員にアピールすることにより会費支払い率の向上を図る。会員データベースの利用、大学と連携しての大学施設等の利用、八雲クラブの利用、会報の配布 (未払い者の配布停止) など。

広告・協賛の検討

会報への広告掲載、イベントへのスポンサー協賛等を通じて企業・法人等からの収入増加を図る。

会員データベースの利活用

既存の同窓会員データベースの継続的なアップデート及び拡充を図り、寄付金募集や会員増加方策の基礎資料として活用するとともに、会員、就活生への閲覧サービスによる会員メリットとしての活用、また、会員データベースを活用した卒業生団体への事務代行等を行う。

事務局体制の充実

財政の改善を進めるためには、具体的な施策を実施するためのリソース (人員、費用) が必要となるため事務局体制の充実を図る。

経費節減

財政改善の必要経費を確保するため、ICT の活用 (メール、HP など) による経費 (印刷・郵送料) の削減をはじめとした業務の合理化を実施する。

支払方法の多様化

支払者の利便を考え、近年多様化している支払方法 (クレジットカード、電子マネー、コード決済、クラウドファンディング等) が活用できるよう検討する。

BIM ライブラリ技術研究組合 (BLCJ)

理事長 奥 田 修 一

都立大1973年卒 工・建築

BIM (Building Information Modeling) の
部材・部品オブジェクトの
標準化を進めます

<https://www.blcj.or.jp/>



一般社団法人 東京都立大学同窓会 第2回 定時代議員会 議事録抜粋

日時 2022年(令和4年)10月22日(土) 14:00~15:30

場所 東京都立大学 荒川キャンパス 校舎棟 大視聴覚室

出席者 代議員総数246名、出席代議員59名、委任状139名

出席理事25名(代表理事(会長)を含む。)、出席監事2名

仮議長(奥田理事)が開会宣言を行い、議長に黒川理事(副会長)を提案し承認された。石澤事務局長より、出席者53名、委任状139名、合計192名で定款に定める代議員会の定数を満たしているとの報告があった。黒川議長が八木理事を書記に指名し承認された。議事録署名人については、黒川議長が松浦知彦氏と石澤清明氏の2名を指名し承認された。

吉田会長の挨拶と同窓会活動の現状報告の後、議事に入った。

(1) 決議事項 第1号議案「令和3年8月1日から令和4年7月31日までの決算書類(財産目録等を含む)の承認の件」

高橋財務委員長から議案の説明を「第2期決算「令和3年8月1日から令和4年7月31日までの決算書類(財産目録等を含む。)」、「2021年度同窓会寄付講義 講師、講義題名、講義日」、「決算報告書」、「貸借対照表」、「正味財産増減計算書」、「正味財産増減計算書内訳表」、「財務諸表に対する注記」、「附属明細書」、「財産目録」及び決議事項①-2「八雲クラブ特別会計第2期収支決算報告書」の資料を提示し、それに沿って説明した。

加藤監事より下記の通り第1号議案に関する会計監査報告があった。「私と小原監事、高部監事の3名の監事は、一般社団法人東京都立大学同窓会の令和3年8月1日から令和4年7月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。事業年度は第2期に相当します。3名の監事は、理事等との意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決算書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。

その結果、

1. 事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
2. 理事の職務の執行に関する不正行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
3. 計算書類及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況を適正に表示しているものと認めます。」

引き続き、加藤監事から八雲クラブ特別会計第2期収支決算について、以下の通り報告があった。

「私たち監事3名は、令和4年9月12日に八雲クラブの会議室で、「八雲クラブ特別会計第2期収支決算」について会計監査を行いました。

会計監査の結果、「八雲クラブ特別会計第2期収支決算」については、適正であることを認めます。」

- ① 第1号議案の質疑と採決：質問が無く、第1号議案は委任状含む賛成多数で可決承認された。

(2) 報告事項「第3期予算」

高橋財務委員長から議案の説明を「第3期予算 事業計画」、「第3期予算(総括表)」、「第3期予算(事業別算定表)」及び報告事項①-2「八雲クラブ特別会計第3期予算」を提示し、それに沿って説明した。

○ 第3期予算の質疑(☆質問/★答え)

☆末岡真純(都立大 74年卒 土木) 理事・代議員から事業報告では大学のキャリア支援業務の支援を掲載しているが、第3期の事業計画では掲載していない。来期も支援するのか。大事な事と思うので質問した。大学の方向性を同窓会も共有して、大学の質を上げたら良いのではないかと。

★黒川総務委員長 インターンシップ事業に支援する予定になっている。

★吉田会長 包括連携協定の中でテーマとして上がってくる。具体的に書かれていないが、一般社団法人として積極的に支援していく。

☆津久井文哉(首都大 16年卒 経シ) 代議員から第3期予算の重点はどこか、何が重点かわからない。

★高橋財務委員長 学生支援事業など今までやってきたことが重点、均衡予算に基づき、どこかを増やせば減らすところが出てくるわけで、全ての項目が重点である。

☆津久井文哉代議員 同窓会の目的が見えない、ゴールはどこにあるのか、包括連携協定はどうするのか。

★黒川総務委員長 同窓会の目的については、定款に事業の目的として5つ定めている。大学の発展への協力及び相互の連携、会報、会員名簿及び各種資料の発行、会員相互の研究発表、研修及び講演会等の開催、会員相互の親睦を図るための会員大会等の開催、その他、これらの目的を達成するために必要な事業を行うと定めている。会員の相互理解などについては、できることから重点的に進めていく。

☆津川喬子(首都大 12卒 地理) 会費については会報に同封されている払込票の他に支払の方法はあるのか。

★石澤事務局長 払込票の他にインターネットバンキングができるようにしており、会報に同封している払込票の中でもコメントしているが、今後、会報だけではなくホームページでも周知していく。

☆吉田雅一(都立大 84卒 政治) 大学との包括連携協定では、大学が入会金だけでなく同窓会費も受け取ることはできないか。

★石澤事務局長 包括連携協定における大学との共催事業はホームカミングデー及びひな祭りとなっており、他の事業はこれから一つ一つやっていく、入会金については大学と議論していない、今後、大学に要望していく。

報告事項② 八雲クラブ会則の制定及び八雲クラブ(利用)細則の改定

丑山八雲クラブ委員長から議案の説明を「八雲クラブ会則」及び「八雲クラブ細則」を提示し説明した。

○ 八雲クラブ会則の制定及び八雲クラブ(利用)細則の改定の質疑(☆質問/★答え)

☆石原 裕(都立大 66年卒 機械) 女性の会員比率が低いので女性だけの委員会を作って問題点を出示してもらったらどうか。

★黒川総務委員長 役員に女性を増やすことについて検討する。

☆大石不二夫(都立大 63年卒 工化) 卒業後リスクリング、スキルをもう一つ作ることを同窓会が大学と連携して卒業生にもPRしたらどうか。

★黒川総務委員長 サポートについて検討の一つに加える。

黒川議長が15時30分に閉会を宣言した。

東京都立大学同窓会 会計報告

財務委員長 高橋 誠

一般社団法人東京都立大学同窓会の財務諸表は、「公益法人会計基準」に準拠し、公認会計士の指導を受けて作成しています。

第2期決算 正味財産増減計算書

自 2021年8月1日 至 2022年7月31日

単位：円

科 目		当 年 度	前 年 度	増 減	
I 一 般 正 味 財 産 増 減 の 部	經常 収 益	受取入会金	20,680,000	2,660,000	18,020,000
		受取入会金	20,680,000	2,660,000	18,020,000
		受取会費	6,106,846	1,945,000	4,161,846
		正会員受取会費	977,000	265,000	712,000
		正会員終身受取会費	5,129,846	1,680,000	3,449,846
		受取寄附金	3,809,846	126,711,589	△122,901,743
		受取寄附金（目的寄附）	428,000	115,000	313,000
		受取寄附金（維持寄附）	911,000	533,000	378,000
		受取寄附金（維持寄附）終身	2,470,846	1,527,000	943,846
		任意団体からの受入金収入		124,536,589	△124,536,589
		雑 収 益	191,049	18,000	173,049
		雑 収 益	191,049	18,000	173,049
		經常収益計	30,787,741	131,334,589	△100,546,848
		經常 費 用	事 業 費	15,473,322	5,566,777
	給料手当		5,930,940	1,525,000	4,405,940
	会 議 費		53,439	2,225	51,214
	旅費交通費		270,198		270,198
	通信運搬費		233,587	196,623	36,964
	消耗品費		106,845	3,993	102,852
	印刷製本費		11,271		11,271
	光熱水料費		20,070	4,725	15,345
	賃 借 料		2,404,745	1,062,500	1,342,245
	広告宣伝費		25,000	25,000	0
	諸 謝 金		529,120		529,120
	支払手数料		35,228	298,711	△263,483
	支払助成金		3,332,879	1,588,000	1,744,879
	支払奨学金		2,520,000	840,000	1,680,000
	委 託 費			20,000	△20,000
	減価償却費				
	管 理 費		13,992,649	11,534,465	2,458,184
	給料手当		1,186,190	1,200,930	△14,740
	会 議 費		10,728	1,870	8,858
	旅費交通費		581,010	245,094	335,916
通信運搬費	3,512,081		3,371,734	140,347	
消耗品費	176,550		159,985	16,565	
印刷製本費	6,109,443		6,005,722	103,721	
光熱水料費	4,014		945	3,069	
賃 借 料	24,956		60,500	△35,544	
広告宣伝費	74,832			74,832	
諸 謝 金	601,000		73,200	527,800	
租税公課	97,720	116,130	△18,410		
支払手数料	1,402,125	261,800	1,140,325		
支払助成金	80,000		80,000		
委 託 費	132,000	36,555	95,445		
減価償却費					
經常費用計	29,465,971	17,101,242	12,364,729		
評価損益等調整前当期經常増減額	1,321,770	114,233,347	△112,911,577		
評価損益等計	0	0	0		
当期經常増減額	1,321,770	114,233,347	△112,911,577		
經常外 増 減 の 部	經常外収益計	0	0	0	
	經常外費用計	0	0	0	
	当期經常外増減額	0	0	0	
	当期一般正味財産増減額	1,321,770	114,233,347	△112,911,577	
	一般正味財産期首残高	114,233,347	0	114,233,347	
一般正味財産期末残高	115,555,117	114,233,347	1,321,770		
II 増 指 定 正 味 財 産 部 産	受取寄附金	0	87,500,000	△87,500,000	
	受入子会社株式	0	87,500,000	△87,500,000	
	当期指定正味財産増減額	0	87,500,000	△87,500,000	
	指定正味財産期首残高	87,500,000	0	87,500,000	
	指定正味財産期末残高	87,500,000	87,500,000	0	
III 正味財産期末残高	203,055,117	201,733,347	1,321,770		

第2期決算（貸借対照表）

2022年7月31日現在

単位：円

勘定科目		当年度	前年度	増減	
I 資産の部	流動資産	現金預金	115,329,117	114,363,357	965,760
		現金	130,649	475,464	△344,815
		普通預金	115,198,468	113,887,893	1,310,575
		前払費用	242,000	0	242,000
		貯蔵品	2,000	0	2,000
	流動資産合計	115,573,117	114,363,357	1,209,760	
	固定資産	特定資産			
		子会社株式	87,500,000	87,500,000	0
		特定資産合計	87,500,000	87,500,000	0
	固定資産合計	87,500,000	87,500,000	0	
資産合計	203,073,117	201,863,357	1,209,760		
II 負債の部	流動負債	預り金	16,000	26,210	△10,210
		仮受金	2,000	2,000	0
		リース債務	0	101,800	△101,800
	流動負債合計	18,000	130,010	△112,010	
	負債合計	18,000	130,010	△112,010	
III 正味財産の部	指定正味財産				
	寄附金	87,500,000	87,500,000	0	
	指定正味財産合計	87,500,000	87,500,000	0	
	(うち特定資産への充当額)	(87,500,000)	(87,500,000)	0	
	一般正味財産	115,555,117	114,233,347	1,321,770	
正味財産合計	203,055,117	201,733,347	1,321,770		
負債及び正味財産合計	203,073,117	201,863,357	1,209,760		

*前年度（2021年4月1日～2021年7月31日）

第2期決算（財産目録）

2022年7月31日現在

単位：円

貸借対照表科目	場所・物量等	内容等	金額
(流動資産)			
現金	手許在高		130,649
普通預金	みずほ銀行 多摩センター支店 ゆうちょ銀行		82,240,779
	ゆうちょ銀行	東京都立大学同窓会	23,005,398
	みずほ銀行 南大沢支店	東京都立大学への 名称変更記念募金	403,905
	ゆうちょ銀行	東京都立大学への 名称変更記念募金	992,666
貯蔵品		QUOカード2枚	8,555,720
前払費用		令和4年8月から 令和5年3月 家賃	2,000
流動資産合計			242,000
(固定資産)			
特定資産			
子会社株式	1,750株	(株)都立大学同窓会サービス株式	87,500,000
固定資産合計			87,500,000
資産合計			203,073,117
(流動負債)			
預り金		源泉所得税	16,000
仮受金		八雲クラブ入会金	2,000
流動負債合計			18,000
負債合計			18,000
正味財産			203,055,117

第3期予算（総括表）

自 2022年8月1日 至 2023年7月31日

単位：千円

科 目	第3期予算	
經常収入	受取入金	22,100
	受取会費	
	正会員受取会費	1,437
	正会員終身受取会費	5,160
	受取寄附金(目的寄附)	860
	受取寄附金(維持寄附)	808
	受取寄附金(維持寄附)終身	2,560
	雑収益	
	受取利息	226
	記念行事事業前受金	1
記念行事事業前受金	1,180	
經常収益計	34,332	
經常費用	給料手当	0
	会議費	2,287
	旅費交通費	480
	通信運搬費	0
	消耗品費	257
	広告宣伝費	55
	印刷製本費	0
	委託費	0
	光熱水料費	0
	賃借料	2,280
	諸謝金	1,055
	租税公課	0
	※1 支払手数料	29
	支払助成金	4,454
	※2 支払奨学金	2,520
	給料手当	7,855
	会議費	0
	旅費交通費	804
	通信運搬費	4,108
	消耗品費	765
広告宣伝費	0	
印刷製本費	6,226	
委託費	199	
光熱水料費	20	
賃借料	508	
諸謝金	955	
租税公課	401	
支払手数料	1,000	
支払助成金	420	
支払奨学金	0	
予備費	200	
經常費用計	36,878	

上記の經常費用計36,878千円から奨学金事業の※1支払手数料のうち26千円と※2支払奨学金2,520千円の合計の經常費用2,546千円を除くと34,332千円となる。

八雲クラブ特別会計第2期収支決算報告書

自 2021年8月1日 至 2022年7月31日

単位：円

収入の部		支出の部	
前年度より繰越金 (A)	3,940,518	(今年度支出)	
(今年度収入)		印刷発送費	726,374
会員・会費収入	838,890	サロン運営費	1,204
サロン参加費	0	講師謝礼	30,000
ビジター利用料	141,200	人件費	197,000
雑収入(預金利子他)	17	交通費	19,736
一般会計助成金	864,000	通信費	69,022
小計 (B)	1,844,107	清掃費	88,000
		会費返却	3,000
		雑費	65,975
		八雲クラブ委員会費	0
		振込手数料	2,310
		ゆちょ残高手数料	1,100
		小計 (C)	1,203,721
		今年度損益 (D=B-C)	640,386
		次年度繰越金 (E=A+D)	4,580,904
合計 (A+B)	5,784,625	合計 (C+E)	5,784,625

次年度繰越内訳	三井住友銀行・渋谷支店(7/31)	4,096,430
	神南郵便局振替口座(7/31)	355,092
	手元現金(7/31)	129,382
	資産合計	4,580,904
	未払金 清掃費	88,000
	負債合計	88,000
	次年度繰越金	4,492,904

八雲クラブ特別会計第3期予算

自 2022年8月1日 至 2023年7月31日

単位：千円

収入の部		支出の部	
会員会費	800	印刷発送費	1,134
サロン参加費	155	サロン運営費	250
ビジター利用料	142	講師謝礼	70
雑収入	0	人件費	350
一般会計助成金	864	交通費	60
繰越金活用	898	通信費	67
		清掃費	188
		手数料支払	65
		雑費	471
		八雲クラブ委員会費	150
		振込手数料	3
		予備費	50
合計	2,859	合計	2,859

《2期収支のポイント》

1. 会員は2期末時点で276人、1期末時点で278人。
2. サロン運営は、オンライン無料化→参加収入はゼロ化、運営費支出も講師謝礼以外はほぼなし。
3. ビジター利用収入も、コロナ禍の影響を受けたまま。
4. 第2期主な投資費用
 - 4-1. 清掃費～消毒費80千円を加えて実施。
 - 4-2. 雑費～ZOOM年会費、ノートン更新、チェーン交換

TDS (株式会社都立大学同窓会サービス) 第37期会計報告

代表取締役 河川 修

貸借対照表

(2022年1月31日現在)

単位：円

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	33,630,055	流動負債	876,437
現金及び預金	33,630,055	未払金	7,637
固定資産	55,076,650	前受金	570,000
・有形固定資産	55,003,850	未払法人税等	298,800
建物	4,030,170	負債の部合計	876,437
土地	50,973,680	純資産の部	
・無形固定資産	72,800	株主資本	87,830,268
電話加入権	72,800	(資本金)	87,500,000
		資本金	87,500,000
		(利益剰余金)	330,268
		繰越利益剰余金	330,268
資産の部合計	88,706,705	純資産の部合計	87,830,268
		負債及び純資産の部合計	88,706,705

貸借対照表注記事項

減価償却累計額 33,108,550円

損益計算書

自 2021年2月1日 至 2022年1月31日

単位：円

【純売上高】	
貸室収入	2,280,000
売上総利益	2,280,000
【販売費及び一般管理費】	1,733,025
営業利益	546,975
【営業外収益】	
受取利息	528
経常利益	547,503
税引前当期純利益	547,503
法人税等	298,879
当期純利益	248,624
前期繰越利益	81,644
当期末処分利益	330,268

販売費及び一般管理費

自 2021年2月1日 至 2022年1月31日

単位：円

科目	金額
管理費	504,600
警備費	263,992
減価償却費	293,420
水道光熱費	115,173
旅費交通費	92,129
手数料	106,932
租税公課	222,500
保険料	19,350
通信費	114,929
合計	1,733,025

利益処分計算書

単位：円

【当期末処分利益】	330,268
【次期繰越利益】	330,268
上記の通りご報告申し上げます。	
2022年3月16日	
株式会社 都立大学同窓会サービス	
代表取締役	河川 修
取締役	中村 政和
取締役	袴田 勝紀

会計監査の結果、上記の報告は適正であることを認めます。
 監査役 吉田 俊雄
 監査役 松本 博

会費納入のお願いと「会報 TMU の発送の一時停止制度」の開始について（お知らせ）

今般、理事会に会報TMUの発行、発送に係る検討委員会を設置し、厳しい財務状況下で将来の会報の発行、発送について検討致しました。その結果、理事会の最終承認を経て、『2024年以降は会報を発行するその年の3月31日を基準に会費を5年以上未納の場合は、会報TMUの発送を一時停止させていただくこと』となりました。なお、その後停止条件が解消した場合は送付を再開致します。

具体的に2024年の会報TMU19号の場合、2024年3月31日時点で5年以上会費未納の会員の方には発送を一時停止することになります。

本会の一層の発展のためには財政基盤の安定、強化が必須の状況となっていることをご理解頂き、年会費あるいは終身会費の納入を改めてお願い致します。

会費は以下の金額です。

年会費 3,000円

終身会費 30,000円

今後の本同窓会の一層の発展のために会費納入のご協力を重ねてお願い申し上げます。

2023年7月1日

一般社団法人 東京都立大学同窓会

力作をお待ちします！ 協賛広告・投稿・表紙を飾る作品大募集

2024年7月に刊行予定のTMU 19号（予定発行部数4万部）に掲載する協賛広告・原稿・表紙を飾る作品を募集します。それぞれ本誌掲載を参照してください。

いずれも事務局へメールでご連絡ください。

同窓会事務局 tmu-al@tmu.ac.jp

メール件名に広告・投稿・表紙を明記してください。またご自身の出身大学・卒年・学科/コースを添えてください。

★ 協賛広告

お仕事の広告や同窓生へのメッセージに！

1コマ：左右78mm × 天地38mm 5000円

複数コマは割引致します。

1pや表紙裏・裏表紙のカラー広告もお受けします。申し込まれると折り返し広告申込書を返信しますので、必要事項を記入の上、期日までに原稿や版下のお届けと掲載料のお振込みをしてください。

住所・メールアドレスなどの変更届のお願い

ご住所やメルアドが変わった場合は、必ず同窓会事務局にお届けください。

会報と同封の『住所等変更届（兼払込票）』やホームページの『住所変更等通知書』に必要事項を記載し、ファックス、郵送、メールで連絡してください。

電話での連絡もできます。

変更したことが届かないと、以後、会報などのお届けの手段がなくなり、同窓会との「つながり」が途切れてしまいます。ぜひご連絡をお願いいたします。

★ 同窓生にご挨拶！ 投稿

「同窓生はいま」「TMU プラザ」「支部だより」

いずれも1000字程度 of 原稿と関連する写真1点、「同窓生はいま」はご本人のお写真も添えてください。その他「特別寄稿」としてテーマや字数にこだわらずに書いた投稿も受け付けます。

★ 求む 力作！ 表紙を飾る作品

絵画・イラスト・写真

作品のテーマは問いません。それが母校や学生時代につながる想いを込めた500字程度の「表紙の言葉」と、ご自身のお写真もいっしょにお届けください。

編集委員会で応募作の中から1点を選ばせていただきます。

〆切はすべて24年2月末日といたします。

掲載の可否はすべて編集委員会に一任させていただきます。

編集後記 ————— 河井 信

コロナ禍もようやく落ち着いてきて、同窓生同士の交流も再開されています。会報でも、おかげさまで休載が続いた『TMU プラザ』と『支部だより』を復活することができました。

会報は同窓生同士の「つながり」をさらに密で強固なものにしていく、という役割があると考えています。そのために、できるだけ多くの方々を紹介したいと思っております。

会報 TMU に、皆さんの声や作品をお寄せください。

— 重要なお知らせ！ —

会費未納の方への会報TMUの発送を一時停止します！

同窓会の財政は現在たいへん厳しい状況にあります。会報については、その発送費がとくに大きな負担になっています。そこで会費を5年以上未納の方への会報の発送を一時停止させていただくことにしました。

とりあえず次号のTMU19号（24年7月刊行予定）では、24年3月31日時点で5年以上会費未納の会員へは、発送を一時停止させていただきます。当該の方には今号の送付封筒に予告文書を同封しました。

24年3月31日までに会費が納入された場合は、送付致します。25年以降も同じ基準で、発送の可否を判断させていただく予定です。

同窓会の一層の発展のためには財政基盤の安定、強化が必須の状況であることをご理解いただき、年会費または終身会費の納入を改めてお願い致します。

振替用紙を同封しましたので、納入のご協力を重ねてお願い致します。

同窓会イベント・行事の開催についてのお知らせ

ご家族も一緒に参加しませんか！

お子さん、お孫さんと散歩気分で気軽な見学大歓迎！

行事・イベントについては、開催予定だけご案内し、決まり次第、同窓会ホームページでお知らせします。それぞれの行事・イベントの前回開催時の様子は同窓会ホームページをご覧ください。

【ホームカミングデー】

母校との共催行事として23年11月3日（金・祝）に、記念講演会・交流会・会員大会を母校の「みやこ祭」11月2日（木）～4日（土）に合わせて南大沢キャンパスでの開催を予定しています。

<https://tmu-alumi.jp/information/2022/11/874.html>



ホームカミングデー
22年11月3日

【ひな祭り】

母校との共催行事として24年も南大沢キャンパス・国際交流会館での開催を予定しています。

<https://tmu-alumi.jp/information/2023/03/974.html>



ひな祭り
23年3月3日

【みやこの集い】

毎年開催されてきましたが、24年は開催時期や内容を見直して、同窓生と在校生が出会える場、交流の場としてより楽しめる企画を検討しています。

<https://tmu-alumi.jp/information/2023/02927.html>



みやこの集い
23年2月4日

TMU 第18号 2023年7月1日 発行

発行 一般社団法人 東京都立大学同窓会
〒192-0364 東京都八王子市南大沢1-1
直通 電話 042-670-7702
FAX 042-677-2894
大学 電話 042-677-1111(代)(内 2181)
電子メール tmu-al@tmu.ac.jp
郵便振替口座 00150-0-426678

印刷 京浜印刷株式会社
〒140-0013 東京都品川区南大井4-7-3
TEL 03-3763-7321
FAX 03-3764-6839

東京都立大学同窓会ホームページ
<https://tmu-alumni.jp>



© 一般社団法人 東京都立大学同窓会

2023年7月1日に発行しました会報 TMU18 号において、掲載内容に誤りがございました。謹んでお詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。

正誤表

1. P 2 4 の右側の本文上から 2 5 行目

(誤) (都 73 年卒 電気学科)

↓

(正) (都 78 年卒 電気学科)

2. P 2 4 の右側の本文下から 7 行目

(誤) 連絡先 E mail : nezu0202@sage.ocn.ne.jp

↓

(正) (削除)